

茨城県教育財団文化財調査報告第124集

主要地方道水戸茂木線道路改良
工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

仲 郷 遺 跡

平成 9 年 6 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第124集

主要地方道水戸茂木線道路改良 工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

なかごう 仲郷遺跡

平成9年6月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

序

茨城県は、長期的な展望のもとに、産業・経済の発展に伴う広域流通機構の整備と、県土の普遍的な発展を図るために、県内の交通体系の整備を進めております。

主要地方道水戸茂木線道路改良工事もその一環として計画されたものですが、その予定地内には、多くの埋蔵文化財包蔵地が確認されています。

このたび、茨城県教育財団は、茨城県から埋蔵文化財発掘調査事業についての委託を受け、平成5年4月1日から平成5年10月31日および平成8年7月1日から平成8年7月31日にかけて、主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内に所在する仲郷遺跡の発掘調査を実施いたしました。

本書は、仲郷遺跡の調査成果を取録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、教育、文化の向上の一助として活用されますことを希望いたします。

なお、発掘調査及び整理作業を進めるに当たり、委託者である茨城県から賜りました多大なるご協力に対し、深く感謝申し上げます。また、茨城県教育委員会、常北町教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成9年6月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋本 昌

例 言

1 本書は、茨城県の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成5年4月から平成5年10月及び、平成8年7月に発掘調査を実施した、茨城県東茨城郡常北町上入野2,195番地ほかに所在する仲郷遺跡の発掘調査報告書である。

2 仲郷遺跡の調査・整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	磯 田 勇 昌 橋 本 芳 昌	昭和63年6月～7年3月 平成7年4月～	
副 理 事 長	角 田 芳 夫 中 島 弘 光 倉 藤 佳 郎	平成3年7月～平成6年3月 平成7年4月～ 平成8年4月～	
専 務 理 事	中 野 弘 光	平成5年4月～平成7年3月	
常 務 理 事	梅 澤 秀 大 齋 藤 紀 彦	平成8年4月～平成9年3月 平成9年4月～	
事 務 局 長	藤 枝 官 一 小 林 隆 郎 小 西 村 敏 一	平成4年4月～平成7年3月 平成8年4月～平成9年3月 平成9年4月～	
埋蔵文化財部長	安 藏 幸 重 沼 田 文 夫	平成5年4月～平成7年3月 平成8年4月～	
埋蔵文化財部長代理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	水 銅 敏 夫 小 幡 弘 明 小 河 崎 孝 典	平成4年4月～平成7年3月 平成8年4月～平成9年3月 平成9年4月～
	課 長 代 理	根 本 達 夫	平成7年4月～(平成6年4月～平成7年3月 係長)
	主 任 調 査 員	清 水 蕉 一 川 井 正 一	平成9年4月～(平成8年4月～平成9年3月 係長) 平成5年4月～平成6年3月
	主 事	小 高 五 二 杉 山 秀 一	平成8年4月～ 平成4年4月～平成6年3月
	経 理 課	課 長	小 幡 弘 明 河 崎 孝 典 鈴 木 三 郎
主 課 長 代 理		田 所 多 佳 男	平成8年4月～
主 事		大 飯 春 夫	平成7年4月～平成9年3月 (平成6年4月～平成7年3月 係長)
		小 飯 島 康 司	平成4年4月～平成6年3月
		小 宮 池 本 孝 勉	平成7年4月～ 平成9年4月～
		小 軍 司 浩 作	平成5年4月～平成8年3月
		柳 澤 松 雄	平成8年4月～平成9年3月
小 西 孝 典	平成9年4月～		
調 査 一 課	課 長(部長兼務)	安 藏 幸 重	平成5年4月～平成8年3月
	調 査 第 三 班 長	沼 田 文 夫	平成8年4月～
	調 査 第 一 班 長	根 本 康 弘	平成5年4月～平成8年3月
	主 任 調 査 員	萩 野 谷 悟 悟	平成7年4月～
	調 査 員	萩 野 谷 悟 悟	平成5年4月～平成5年10月 調査
	主 任 調 査 員	梶 山 雅 彦 仙 波 亨 亨 野 田 良 直	平成5年4月～平成5年10月 調査 平成8年7月～平成8年7月 調査 平成8年7月～平成8年7月 調査
整 理 課	課 長	小 泉 光 正	平成9年4月～
主 任 調 査 員	仙 波 亨 亨	平成9年4月～平成9年6月 整理・執筆・編集	

- 3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。
- 4 本書の作成にあたり、小札等のX線撮影については、財団法人 栃木県文化振興事業団 埋蔵文化財センターの津野仁氏および車塚有久氏にご協力をいただいた。
- 5 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

6 遺跡の概略

ふりがな	しゅようほうどうみともてぎせんとろがかいりょうこうじちないまいぞうふんかざいちようきほうこくしよ						
書名	主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書						
副書名	仲郷遺跡						
巻次	II						
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告						
シリーズ番号	第124集						
著者名	仙波 亨						
編集機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL. 029-225-6587						
発行機関	財団法人 茨城県教育財団						
所在地	〒310 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL. 029-225-6587						
発行日	1997(平成9)年6月30日						
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡	所在地						
仲郷遺跡	茨城県 茨城県 常北町大字上入野字 馬場2, 198番地-1 ほか	08306 -22	36度 26分 25秒	140度 23分 17秒	19960701 ~ 19960731	平成5年度 485㎡ 平成8年度 536㎡ 計1,021㎡	主要地方道 水戸茂木線 道路改良工 事に伴う事 前調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
仲郷遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代 鎌倉時代 時期不明	竪穴住居跡2軒 竪穴住居跡11軒 土坑 5基 土坑 1基 竪穴遺構 1基 土坑 22基 ピット 118基	土師器 須恵器 土師器 須恵器 砥石 紡錘車 鉄製品(鎌・紡錘車) 花瓶・砥石・鉄製品(小札・刀子等)	古墳時代と平安時代の集落跡 土坑内より、平安時代の大型の 小札等、鎌倉時代の花瓶(古瀬 戸)が出土している		

凡 例

- 1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を原点とし、X軸=48,930m、Y軸=49,540mの交点(B1a.)を基準点とした。

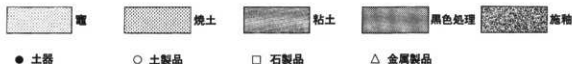
大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C・・・、西から東へ1、2、3・・・とし、「A1区」、「B2区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は、北から南へa、b、c・・・j、西から東へ1、2、3・・・0とし、名称は、大調査区の名称を冠し、「A1a区」、「B2b区」のように呼称した。

- 2 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。

遺構 住居跡-SI 土坑-SK 不明遺構-SX
 遺物 土器-P 土製品-DP 石製品-Q 金属製品-M
 土層 攪乱-K

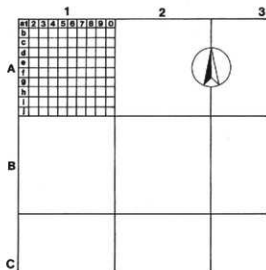
- 3 遺構・遺物の実測図中の表示は、次のとおりである。



- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。

- 5 遺構・遺物実測図の作成方法及び掲載方法については、次のとおりである。

- (1) 遺跡の全体図は縮尺200分の1、住居跡や土坑、不明遺構は60分の1に縮尺し掲載した。
- (2) 遺物は原則として3分の1の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり、それらについては、個々にS=1/○と表示した。
- (3) 「主軸方向」は長径方向とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-E、N-10°-W)。なお、[]を付したものは推定である。
- (4) 土器の計測値は、A-口径 B-器高 C-底径 D-高台径 E-高台高 F-体部径とし、単位はcmである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。
- (5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測(P)番号、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。



第1図 調査区呼称方法概念図

目 次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 遺跡	7
第1節 遺跡の概要	7
第2節 基本層序	7
第3節 遺構と遺物	7
1 竪穴住居跡	7
2 土坑	38
3 その他の遺構及び遺物	54
4 遺構外出土遺物	55
第4節 まとめ	57

挿 図 目 次

第1図	調査区呼称方法概念図		第23図	第11号住居跡実測図	33
第2図	仲郷遺跡調査区設定図	2	第24図	第11号住居跡出土遺物実測図	33
第3図	周辺遺跡分布図	5	第25図	第13号住居跡実測図	35
第4図	基本土層図	7	第26図	第13号住居跡出土遺物実測図	36
第5図	第1号住居跡実測図	9	第27図	第2号土坑・出土遺物実測図	38
第6図	第1号住居跡出土遺物実測図	10	第28図	第23号土坑・出土遺物実測図	39
第7図	第2号住居跡実測図	11	第29図	第24号土坑・出土遺物実測図	40
第8図	第2号住居跡出土遺物実測図	12	第30図	第25・26号土坑・出土遺物実測図	40
第9図	第3号住居跡実測図	14	第31図	第28号土坑・出土遺物実測図	41
第10図	第3号住居跡出土遺物実測図(1)	16	第32図	第35号土坑実測図	42
第11図	第3号住居跡出土遺物実測図(2)	17	第33図	第35号土坑・出土遺物実測図(1)	43
第12図	第4号住居跡実測図	18	第34図	第35号土坑出土遺物実測図(2)	44
第13図	第4号住居跡出土遺物実測図	19	第35図	第35号土坑出土遺物実測図(3)	45
第14図	第5号住居跡実測図	21	第36図	第35号土坑出土遺物実測図(4)	46
第15図	第6号住居跡実測図	22	第37図	小札取別	47
第16図	第7・8・9号住居跡実測図	24	第38図	土坑・出土遺物実測図(1)	51
第17図	第7・9号住居跡実測図	25	第39図	土坑実測図(2)	52
第18図	第7号住居跡出土遺物実測図	27	第40図	第1号整穴遺構実測図	54
第19図	第8号住居跡出土遺物実測図	28	第41図	ビット全体図	56
第20図	第9号住居跡出土遺物実測図	29	第42図	遺構外出土遺物実測図	57
第21図	第10・12号住居跡実測図	30	第43図	へら記号拓影図	59
第22図	第12号住居跡出土遺物実測図	31			

表 目 次

表1	仲郷遺跡周辺遺跡一覧表	6	表3	小札一覧表	47
表2	住居跡一覧表	37	表4	土坑一覧表	53

付図 仲郷遺跡遺構全体図

写真図版目次

- | | | | |
|-------|--|--------|----------------------------------|
| P L 1 | 遺構確認状況、調査区全景（終了）、第2・3・4号住居跡遺物出土状況、第3・4号住居跡完掘、第7号住居跡遺物出土状況、第7・9号住居跡竈内遺物出土状況 | P L 7 | 第9・11・12号住居跡出土遺物 |
| P L 2 | 第9・13号住居跡遺物出土状況、第13号住居跡完掘、第25・26・35号土坑遺物出土状況 | P L 8 | 第12・13号住居跡、第2・23・24・25・28号土坑出土遺物 |
| P L 3 | 第1・2号住居跡出土遺物 | P L 9 | 第35号土坑出土遺物 |
| P L 4 | 第3号住居跡出土遺物 | P L 10 | 第35号土坑出土小札X線写真 |
| P L 5 | 第4号住居跡出土遺物 | P L 11 | 第35号土坑出土小札X線写真 |
| P L 6 | 第4・7・8・9号住居跡出土遺物 | P L 12 | 第35号土坑出土小札X線写真 |
| | | P L 13 | 第35号土坑出土竈板・檜櫓板X線写真 |
| | | P L 14 | 第35号土坑出土竈板・檜櫓板X線写真 |

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

茨城県では、県土の基盤整備推進の方針のもと、県160分構想の具体化や円滑な都市交通の確保を図るなど、ゆとりある社会の実現を目指して道路の整備を進めている。主要地方道水戸茂木線は、茨城県水戸市と栃木県茂木町を結ぶ幹線道路として重要な役割を果たしている。しかし、近年の交通量の増加により、幅員狭小の上入野地区では交通の混雑が著しい現状にある。茨城県は、その早急な解消を目的として道路の改良工事を計画した。

工事に先立ち、平成4年6月1日、茨城県は、茨城県教育委員会に工事予定地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。そこで、茨城県教育委員会は同年10月27、28日に試掘調査を実施した。その結果、工事予定地内に仲郷遺跡、上入野遺跡、青木遺跡、後側遺跡、前側遺跡が存在することを確認し、同年12月14日、仲郷遺跡ほか4遺跡が所在する旨茨城県に回答した。茨城県は、平成5年1月19日、茨城県教育委員会にその取り扱いについて協議を求めた。同年2月2日、茨城県教育委員会は、茨城県に対し、記録保存の措置を講ずる旨の回答を行い、調査機関として財団法人茨城県教育財団を紹介した。

茨城県と茨城県教育財団は、埋蔵文化財発掘調査に関する業務の委託契約を結び、平成5年4月1日から同年10月31日にかけて、仲郷遺跡、上入野遺跡、青木遺跡、後側遺跡、前側遺跡の発掘調査を実施することとなった。なお、仲郷遺跡については、木買地などの問題もあり、残りの調査を平成8年7月1日から同年7月31日にかけて発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

仲郷遺跡の発掘調査は、平成5年4月1日から平成5年10月31日及び、平成8年7月1日から平成8年7月31日にかけて実施した。以下、その概要を月ごとに略述する。

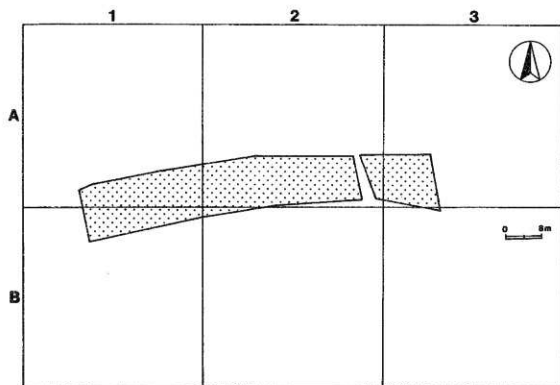
平成5年

- 4月 発掘調査開始にあたっての諸準備を行う。8日に現地踏査を行い、その後現場事務所、倉庫等を設置した。16日から作業補助員を投入し、調査機材等を搬入した。20日に発掘調査の円滑な進行と安全を祈願して献入式を挙行了した。22日に試掘調査を開始した。
- 5月 継続して7日、11日に試掘調査を実施した。その結果、竪穴住居跡等の遺構が確認された。当遺跡の調査を一時休止し、先に青木遺跡、上入野遺跡、後側遺跡、前側遺跡の発掘調査を実施した。
- 9月 当遺跡の調査を14日に再開した。調査の効率を上げるため、重機を導入し、表土の除去を行い、並行して遺構の確認作業を実施した。10月中旬までは後側遺跡の遺構調査を中心に実施した。
- 10月 13日遺構確認状況の写真撮影をし、14日から遺構調査に入った。23日に遺構調査を終了し、25日から撤収の準備を開始し、31日には現場事務所を閉鎖し、今年度分の調査を完了した。

平成8年

- 6月 調査に先立ち、調査区内の表土除去を重機により行う。竪穴住居跡等の遺構の存在を確認する。
- 7月 発掘調査開始するにあたっての諸準備を行う。4日より、作業補助員を投入し、遺構の確認調査を

実施した。5日に調査区内の遺構確認状況の写真撮影を行い、遺構調査に入った。26日に遺構調査を終了し、29日から撤収の準備を開始し、31日には現場事務所を閉鎖し、調査を完了した。



第2図 仲郷遺跡調査区設定図

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

仲郷遺跡は、茨城県東茨城郡常北町大字上入野字馬場2,198番地-1ほかに所在している。

常北町は、茨城県のはほぼ中央部に位置し、北は柱村、東は那珂川をはさんで那珂町、南は水戸市及び笠間市、西は七倉村に接している。

常北町の地形は、西から東に丘陵性山地、台地、沖積低地に大別される。西部の丘陵性山地は、八溝山地の南の鶏足山塊の東縁部にあたり、標高200m程度の低山が連なる。鶏足山塊は、主に砂岩、頁岩の互層からなり、一部にチャートや石灰岩をはさんでいる。また、丘陵性山地周辺部には凝灰岩、砂岩、泥岩等からなる地層が分布しており、台地の基盤岩となっている。常北町の台地は、那珂西台地あるいは石塚台地と呼ばれる洪積台地であり、市街地の大部分がここに形成されている。台地は、標高40~50m程度で低地との比高は約20mあり、急崖に囲まれている。町の東部を南に流れる那珂川と東に流れる藤井川、西田川等の那珂川の支流群は、台地を開析し沖積低地を形成している。低地は主に水田に利用されている。

仲郷遺跡の所在する上入野地区は、常北町の南東部に位置し、東から南は水戸市藤井町及び成沢町に接している。遺跡は、石塚台地南部の上入野台地に立地する。この台地は、北部を流れる藤井川と南部を流れる前沢川によって開析された西から東に延びる舌状台地である。台地の南北幅は約500m、低地との比高は約20mで、台地の大部分は宅地及び畑地に利用されており、調査前の現況は畑地であった。

主要地方道水戸茂木線の新路線は、水戸方面から上入野台地の東端部南より台地上がり、旧路線の北側を茂木方面へと向かっている。当路線内には上入野遺跡、青木遺跡、後側遺跡、前側遺跡が確認されており、いずれも平成5年度に発掘調査が実施され、平成7年度に「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書1」として刊行されている。

参考文献

- 常北町史編さん委員会 「常北町史」 1988年 3月
- 常北町郷土文化研究会 「常北町上入野・青木・仲郷・後側・前側遺跡の発掘調査」 「常北の文化 第17号」 1994年 3月
- 茨城県教育財団 「主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 上入野遺跡、青木遺跡、後側遺跡、前側遺跡」 「茨城県教育財団文化財調査報告第108集」 1996年 3月

第2節 歴史的環境

仲郷遺跡付近は、那珂川とその支流群によって開析された台地が発達し、原始、古代より恰好な居住の場として利用されてきた。そのため当遺跡の立地する上入野の台地には多数の遺跡が存在する。周辺の遺跡については発掘調査例が少ないため詳細は明らかではないが、当地域の主な遺跡について概観する。

旧石器時代の遺跡としては、春岡遺跡、片山遺跡、二本松遺跡、尚原遺跡の4か所が知られている。いずれも常北町の北部に位置し、石器が採集されているが時期等は不明である。また、那珂川右岸の水戸市十万原

の台地上のドウセンクボ遺跡<10>、二の沢遺跡<11>、十万原遺跡<17>等からも旧石器が採集されている。

縄文時代の遺跡は、山間部から台地の縁辺部まで広く分布している。町内の遺跡では、早期から晩期までの遺物が出土している片山遺跡をはじめ、早期の小坂宮方遺跡、安流遺跡、早・前期の仲野田遺跡、早・中期の中交遺跡<7>、那珂西遺跡<16>、上入野台地に立地する中期の関根遺跡、後側遺跡<4>がある。後期の遺跡としては、外ノ内・天神遺跡<6>、増井本郷遺跡<22>等が知られている。また、那珂川右岸の遺跡としては、ドウセンクボ遺跡、二の沢遺跡、ニカサワ遺跡<13>、十万原遺跡、藤井町遺跡<18>、清水台遺跡<20>、南駒形遺跡<21>、塙遺跡<25>、鴨沢大塚遺跡<27>、下宿遺跡<32>、馬場尻遺跡<35>等が知られている。

弥生時代になると遺跡数は少なくなり、片山遺跡、風車前遺跡、上入野遺跡<2>などが知られている程度である。常北町周辺の遺跡としては、那珂川右岸の台地縁辺部に立地したポンベン遺跡<9>、ドウセンクボ遺跡、馬場尻遺跡などがあげられる。

古墳時代前・中期の遺跡は、弥生時代の遺跡と同様確認されている遺跡数は少なく、石塚地区の風車前遺跡や上入野台地や那珂西台地で確認されている程度である。後期になると遺跡数は増加する。風車前遺跡からは、多量の後期の土器とともに石製模造品、滑石製の勾玉や白玉等が出土している。また、この時期の古墳としては、増井古墳<23>、上青山古墳群、長峰古墳群、石塚古墳群等が知られている。

奈良・平安時代になると遺跡数はさらに増加し、中麦遺跡、北米遺跡<8>、那珂西遺跡、増井遺跡、上入野遺跡、青木遺跡<3>、後側遺跡、前側遺跡<5>等常北町内だけでも36か所の遺跡が確認されている。常北町周辺の遺跡としては、那珂川右岸の台地上には水戸市の台渡 魔寺跡がある。この寺は、「徳輪寺」、「仲寺」と呼ばれた那珂郡の「郡の寺」であり、これまでの調査で塔跡、門跡、溝、工房跡、欄列等が確認されており、さらに寺の北側には、那珂郡の郡衙の存在も想定されている。また、南西約4kmの前沢川上流には木葉下窟跡(水戸市)があり、現在までに1.5km四方に金山支群、三ヶ野支群、高取山支群の3支群が確認されている。これらの窟跡は、8世紀初頭から9世紀後半まで操業していたと考えられている。当窟跡からは台渡魔寺に供給していたとみられる瓦も出土しており、台渡魔寺や那珂郡衙とかかわりのある官窯としての性格を有していたものと考えられている。さらに、南東3kmの那珂川右岸の台地上には、火葬骨を納めた磁器器が密集して発見された飯富火葬墓跡<30>(水戸市)がある。

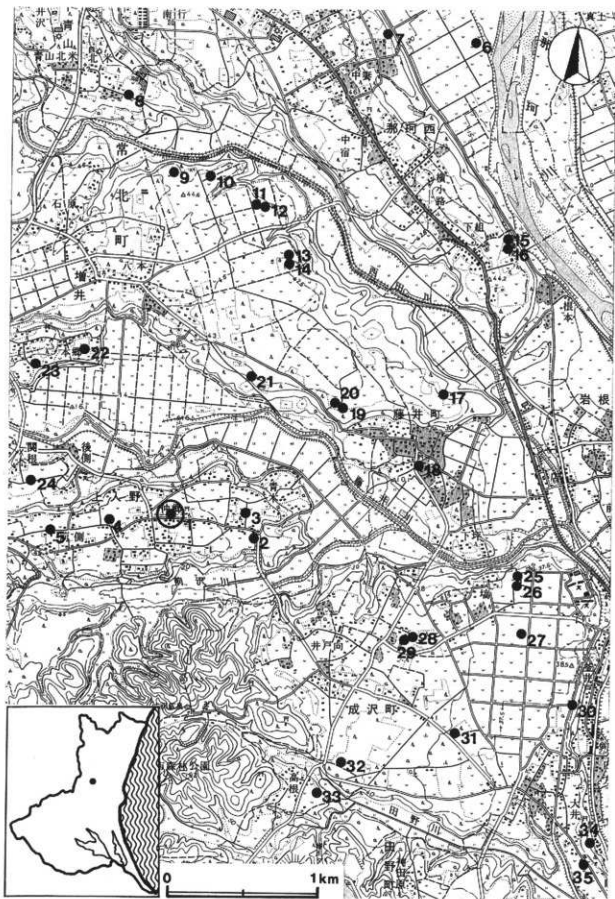
平安時代から中世にかけては、この地域は常陸大掾氏、那珂氏、佐竹氏の勢力下であり、各種の抗争の舞台となった。そのため、各氏の一族や臣下の城館が各所に造られた。石塚城跡や県指定史跡の那珂西城跡<15>は今でも堀や土塁の跡を留めている。上入野地区でも、小字名から考えて3か所に城館の存在が考えられている。また、上入野台地西端の小松寺には、平重盛のものと思えられる墓が存在する。

近世になると、この地域は水戸藩領となり、佐竹氏、大掾氏、江戸氏の一族や家臣で畑農した者や、戦国以降に移住した武士や農民が加わり近世の村を形成した。元禄期頃からは、茶の生産が盛んに行われるようになり、那珂川水運の中継地として河岸が置かれるなど賑わいをみせていた。

※文中の<>内の番号は、表1、第3図中の該当番号と同じである。

参考文献

- 茨城県教育委員会「茨城県遺跡地図」1990年 3月
- 常北町史編さん委員会「常北町史」1988年 3月
- 常北町郷土文化研究会「常北の文化 第17号」1994年 3月



第3図 仲郷遺跡周辺遺跡分布図

- 水戸市史編さん委員会『水戸市史』1963年 9月
- 茨城県史編さん第一部会『茨城県史料 考古史料編 先土器・縄文時代』1979年 3月
- 茨城県史編さん会『茨城県史料 考古史料編 弥生時代』1991年 3月
- 茨城県史編さん原始古代史部会『茨城県史料 考古資料編 古墳時代』1974年 2月
- 茨城県史編さん会『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』1995年 3月
- 茨城県教育財団『主要地方道水戸茂木線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書1 上入野遺跡、青木遺跡、後側遺跡、前側遺跡』、『茨城県教育財団文化財調査報告第108集』1996年 3月

表1 仲郷遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	県道跡 番号	時代					番号	遺跡名	県道跡 番号	時代					
			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良				江戸	川石	縄文	弥生	古墳	奈良
①	仲郷遺跡	当道跡				○	○	19	清水台古墳群	120	○		○			
2	上入野遺跡	4576	○	○	○	○		20	清水台遺跡	33	○		○	○		
3	青木遺跡					○	○	○	○	21	南駒形遺跡	34	○		○	○
4	後側遺跡			○		○	○	○	22	増井本郷遺跡	4581	○		○	○	
5	前側遺跡						○		23	増井古墳	292				○	
6	外ノ内・天神遺跡	4571	○	○				24	関根遺跡	4575	○		○			
7	中妻遺跡	4577	○					25	塙遺跡	30	○		○	○		
8	北米遺跡	4578				○		26	神生館跡	134						○
9	ボンボン遺跡	2598		○				27	鳴沢町大塚遺跡	2641	○		○			
10	ドウセンクボ遺跡	2597	○	○	○	○	○	28	鳴沢町大塚古墳群	2640				○		
11	二の沢遺跡	2599	○	○	○	○	○	29	飯富遺跡	2618	○	○	○	○		
12	二の沢古墳群	2600				○		30	飯富火葬墓跡	2618						○
13	ニガサワ遺跡	2601	○	○	○	○		31	塚山古墳群	119				○		
14	ニガサワ古墳群	2602				○		32	下宿遺跡	31	○					
15	那珂西城跡	293					○	○	33	高根遺跡	2605				○	○
16	那珂西遺跡	287		○			○		34	大井下古墳群	117				○	
17	十万原遺跡	2603	○	○	○	○	○	35	馬場尻遺跡	2642	○	○	○	○		
18	藤井町遺跡	32	○	○												

第3章 遺 跡

第1節 遺跡の概要

仲郷遺跡は、藤井川と前沢川にはさまれた、標高40～50mの上入野台地の中央部に立地する、古墳・平安時代の集落跡である。調査面積は、平成5年度が485㎡、平成8年度調査が536㎡である。

今回の調査によって確認された遺構は、古墳・平安時代の竪穴住居跡13軒、鎌倉時代の土坑1基、時期不明の竪穴遺構・土坑・ピット141基である。

遺物は、遺物収納箱(60×40×20cm)で25箱出土している。主な遺物は、古墳・平安時代の甕・坏・瓶・盤・蓋等の土師器、須恵器類、灰釉陶器の花瓶(鎌倉時代)のほかには鉄製品として紡錘車、鎌、大鎧の小札等が出土している。

第2節 基本層序

調査区内にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った。(第4図)

第1層は、70cm前後の厚さの耕作土であり、黒色をしている。

第2層は、15～30cmの厚さで、白色微粒子および七本桜軽石ブロックを含む暗褐色土である。

第3層は、5～10cmの厚さで、七本桜軽石を主体とした明褐色土である。

第4層は、0～35cmの厚さで、微量の白色微粒子を含む褐色土であり、粘性を帯びている。

第5層は、15～40cmの厚さで、極微量の白色微粒子を含むハードローム層である。

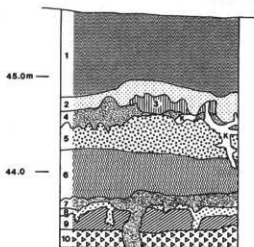
第6層は、40cm前後の厚さで、極微量の白色微粒子を含む褐色土である。(第1黒色帯と考えられる。)

第7層は、5～60cmの厚さで、少量の鹿沼パミスを含む明黄褐色土である。

第8層は、5～20cmの厚さで、多量の鹿沼パミスを含む明黄褐色土である。

第9層は、20cm前後の厚さで、鹿沼パミスを主体とした黄褐色土である。

第10層は、25cm前後の厚さで、砂質を帯びた褐色土である。



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査では、古墳時代の竪穴住居跡2軒、平安時代の竪穴住居跡8軒、時期不明の竪穴住居跡3軒、計13軒の竪穴住居跡を確認した。以下、遺構番号順に記載する。

第1号住居跡（第5図）

位置 調査区の中央部、A3h区。

規模と平面形 長軸4.90m、短軸4.81mのほぼ正方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は16~31cmで、外傾してほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部と南東コーナー部。上幅約10cm、下幅約5cm、深さ約5cmで、断面形はU字状を呈する。

床 平坦で、コーナー部を除いて、ほぼ全面が踏み固められている。

ピット 1か所（P₁）。P₁は、径30~35cmのほぼ円形で、深さ5cmであり、配置から出入り口施設関連の柱穴と思われる。

竈 北壁中央部を壁外に20cmほど掘り込み、山砂と粘土で構築されている。規模は、長さ100cm、幅110cmで、袖部の遺存状態は良い。火床部は、床面をわずかに掘り深めた程度で、赤変硬化している。中央部に土製の支脚が立位の状態で出土している。煙道部は、火床から緩やかに立ち上がっている。覆土は、12層からなる。

覆土層解説

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| 1 明黄褐色 粘土の単純層である | 7 黒褐色 ローム粒子中量、粘土小ブロック少量 |
| 2 に近い黄褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 8 明黄褐色 ロームブロック主体 |
| 3 明黄褐色 焼土粒子微量 | 9 黄褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 に近い赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子中量 | 10 黄褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 5 に近い黄褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
炭化粒子微量 | 11 明黄褐色 焼土粒子微量 |
| 6 暗赤リ・黄褐色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量
炭化粒子微量 | 12 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子少量 |

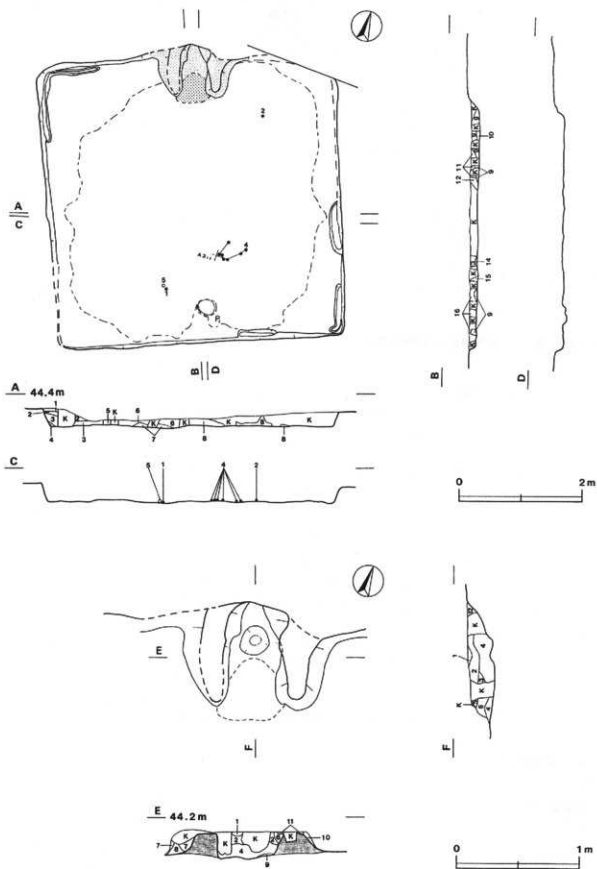
覆土 16層からなる自然堆積である。

土層解説

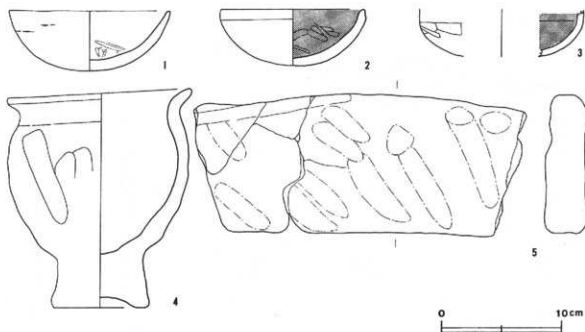
- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 9 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | 10 黒褐色 ローム粒子多量、焼土粒子微量 |
| 3 黒色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 11 黒色 ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量 | 12 黒色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 5 暗赤褐色 ローム粒子多量 | 13 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量、ローム粒子少量 |
| 6 黒色 焼土粒子微量、ローム粒子少量 | 14 赤褐色 焼土粒子少量 |
| 7 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 15 黒色 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 8 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子微量 | 16 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子微量、ローム粒子少量 |

遺物 土師器片248点、須恵器片9点、不明鉄製品2点が出土している。第6図1の土師器杯、4の土師器台付鉢は南部床面から、2の土師器杯は北東部床面からそれぞれ出土している。3の土師器杯は、覆土中から出土している。5の上製品は、竈の補強材と考えられる。

所見 本跡は、遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期（7世紀後半）の住居跡と思われる。



第5图 第1号住居跡实测图



第6図 第1号住居跡出土遺物実測図

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考	
第6図 1	土師器 A	13.3	丸底。体部は丸味を持って立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は若干内彎する。	体部外面および口縁部内・外面は摩耗が著しい。体部内面へラ磨き。	長石・石英 褐色 普通	P1 99% 床面	
		B					5.0
2	土師器 A	12.0	丸底。体部は丸味を持って立ち上がり、口縁部との境に弱い稜をもつ。口縁部は弱く外傾して立ち上がる。	体部外面へラ削り、口縁部内面横ナズ。体部内面へラ磨き。	長石・石英 褐灰色 普通	P2 80% 床面 内面黒色処理	
		B					4.8
3	土師器 B	(4.0)	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	体部外面へラ削り、口縁部内面横ナズ。体部内面は摩耗が著しい。	長石・石英 暗褐色 普通	P3 40% 覆土内 内面黒色処理	
第6図 4	土師器 A	15.2	口縁部一部欠損。中実柱状の脚部を持つ。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。口縁下端部に一条の沈線が走る。中実柱状の底部は、上げ底状を呈する。	体部外面縦方向のへラ削り、内面ナズ。口縁部内・外面横ナズ。中実柱状の底部内面上げ底、へラ削り。	長石・石英 明赤褐色 普通	P4 70% 床面	
		B					18.1
		D					7.7
		E					5.0

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第6図5	敷補強材	27.7	12.0	3.8	1420.3	覆土中層	DP1

第2号住居跡(第7図)

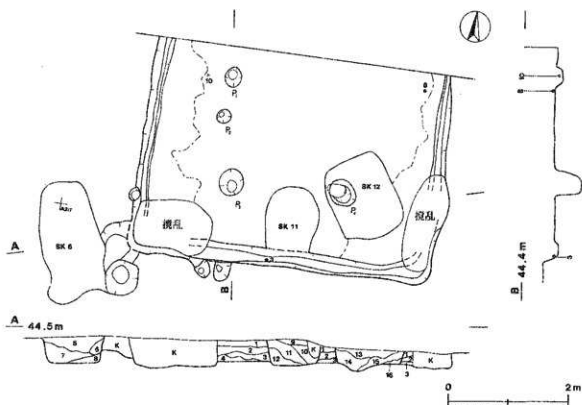
位置 調査区東部, A2h, 区。

重複関係 本跡の南部で、第11, 12号土坑と重複している。第11, 12号土坑が、本跡の覆土を掘り込んでいるので本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.18m, 短軸(3.55)mで長方形と思われる。

主軸方向 N-89°-E

壁 壁高は27~47cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。



第7図 第2号住居跡実測図

壁溝 全周すると思われるが、北部は調査区外であり確認できていない。また、部分的に掘乱を受けている。

上幅約12cm、下幅約7cm、深さ約5cmで、断面形はU字状を呈する。

床 はほぼ平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁は、径30cmのほぼ円形で、深さ10cm。P₂は、径25cmのほぼ円形で、深さ10cm。P₃は、径40cmのほぼ円形で、深さ45cm。P₄は、径40~50cmの楕円形で、深さ70cmである。P₃、P₄は位置及び覆土から考えて主柱穴、P₁、P₂は補助柱穴と考えられる。

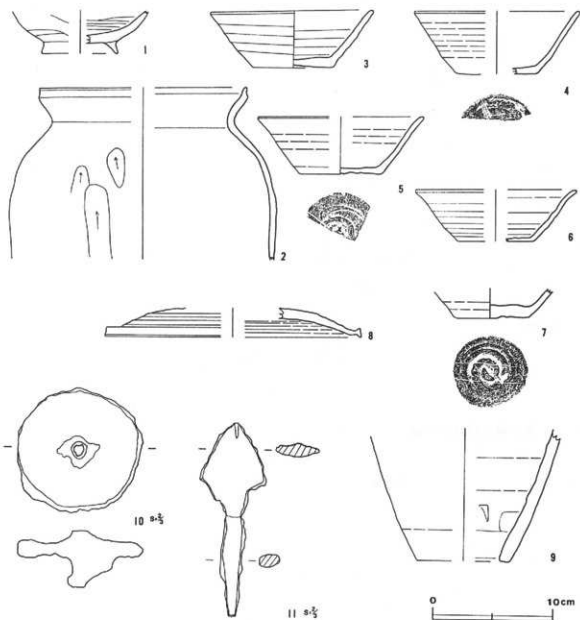
覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 炭土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量 | 3 黒褐色 ローム粒子少量、炭土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黄灰色 炭土粒子・炭化粒子・ローム粒子極微量 | 4 オリーブ褐色 ローム粒子中量、炭土粒子・炭化粒子極微量 |

遺物 土師器片308点、須恵器片325点、鉄製紡錘車1点、鉄鎌1点、鉄滓1点が出土している。第8図3の須恵器環は南部壁溝内から、8の須恵器蓋は北東部床面から、10の鉄製紡錘車は西部床面からそれぞれ出土している。1の土師器高台付環、2の土師器甕、4~7の須恵器環、11の鉄鎌はいずれも覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から、平安時代(9世紀前半)の住居跡と思われる。



第 8 図 第 2 号住居跡出土遺物実測図

第 2 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 8 図 1	高台付 土 脚 器	B (3.6) D 6.4 E [1.0]	底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。高台部は「ハ」の字状に外反する。	体部外面横ナデ、内面へラ削き。	長石・石英 明赤褐色 普通	P 5 30% 覆土中
2	壺 土 脚 器	A [17.3] B (14.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で「ク」の字状に屈曲する。口縁端部はつまみ上げられる。	口縁部内・外面横ナデ、体部外面縦方向のへラ削り。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P 6 20% 覆土中
3	平 須 志 器	A 13.4 B 5.0 C 6.6	体部は外翻して立ち上がり、口縁部で緩やかに外反する。	体部内・外面クロナデ。底部回転へラ切り後、へラ削り調整。	長石・石英 針状鉱物 褐灰色 良好	P 7 100% 壁溝中

図号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色酒・焼成	備考
第8図4	灰 須 器	A [13.6]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部同転へう切り。	長石・石英 針状鉱物 灰黄色 良好	P18 40% 覆土中 底部にへう記号
		B 5.3				
		C [6.5]				
5	灰 須 器	A [13.5]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で緩やかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部同転へう切り。	長石・石英 針状鉱物 灰色 良好	P19 25% 覆土中 底部にへう記号
		B 4.9				
		C [6.8]				
6	灰 須 器	A [13.4]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部で緩やかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部同転へう切り後、へう彫り。	長石・石英 針状鉱物 灰黄色 良好	P10 25% 覆土中
		B 4.3				
		C [6.3]				
7	灰 須 器	B (2.5)	底部から体部にかけての破片。体部は外傾しながら立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部同転へう切り。	長石・石英 針状鉱物 灰色 良好	P11 30% 覆土中 底部にへう記号
		C 6.2				
8	蓋 須 器	A [21.3]	口縁部から天井部にかけての破片。天井部は緩やかに下降し、口縁部で突出し、短く垂下する。	天井部同転へう削り。口縁部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 針状鉱物 良好	P12 20% 床面
		B (2.9)				
9	飯 須 器	B (11.0)	底部から体部にかけての破片。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端面・外面子持ちへう削り。	長石・雲母 灰黄色 良好	P13 10% 覆土中 多孔式
		C [7.8]				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第8図10	紡錘車	5.2	5.3	0.8	32.9	覆土中	M1
	鉄壺	8.1	2.8	0.6	15.9	覆土中	M2

第3号住居跡 (第9図)

位置 調査区中央部、A 2hs区。

重複関係 本跡は、北部で第4号住居跡と重複している。第4号住居跡の覆土上に竈を構築していることから本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.80m、短軸3.65mのほぼ正方形である。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は30cm前後で、外傾して立ち上がる。

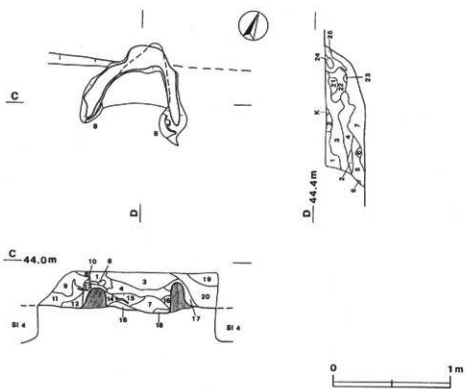
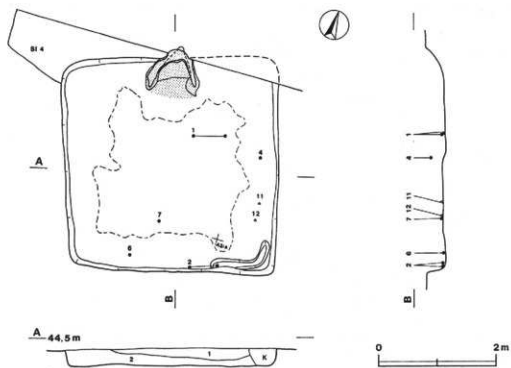
壁溝 南東コーナー部でのみ確認された。上幅約15cm、下幅約10cm、深さ10cmで、断面形はU字状を呈する。

床 ほぼ平坦であり、中央部は踏み固められている。

竈 北壁中央部を北側に15cmほど掘り込み、山砂と粘土で構築している。袖部の遺存状態は良い。火床部は、床面をわずかに掘り窪め、赤変硬化している。煙道部は、火床部から外傾して立ち上がる。覆土は、25層からなる。

層土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------------|--------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 5 黄褐色 | 粘土粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 暗灰黄色 | 粘土粒子中量、ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | 粘土粒子・焼土粒子・ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 灰灰色 | ローム粒子中量、粘土粒子少量、焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 浅灰色 | 粘土ブロック主体 |
| | | 11 黒色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| | | 12 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |



第 9 图 第 3 号住居跡実測图

- 13 暗褐色 焼土粒子・粘土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒少量
- 14 におい褐色 焼土粒子多量、ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
- 15 暗灰黄色 粘土粒子多量、焼土粒子・ローム粒子少量
- 16 黒褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子少量
- 17 暗灰黄色 ローム粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 18 黒色 焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子微量
- 19 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 20 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 21 黄褐色 焼土粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 22 暗褐色 粘土粒子少量、焼土粒子・ローム粒子微量
- 23 暗赤褐色 焼けた造の構築材
- 24 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 25 暗褐色 焼土粒子中量、粘土粒子微量

覆土 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

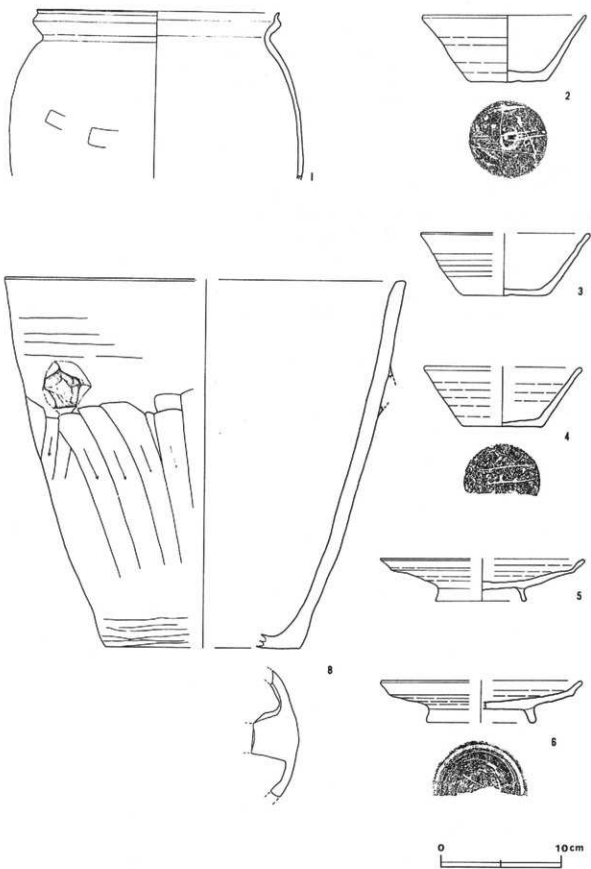
- 1 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片226点、須恵器片161点、不明鉄製品10点が出土している。(第10・11図) 1の土師器壺は中央部床面から、2の須恵器環は南壁床面から、4の須恵器杯、5の須恵器甕は覆土中から、7の須恵器甕は南部床面からそれぞれ出土している。8の須恵器甕は、2つに分断され、甕の左右の袖部の補強材として使用されている。3の須恵器環は、覆土中から出土している。11、12の鉄製品は、東部床面から出土している。

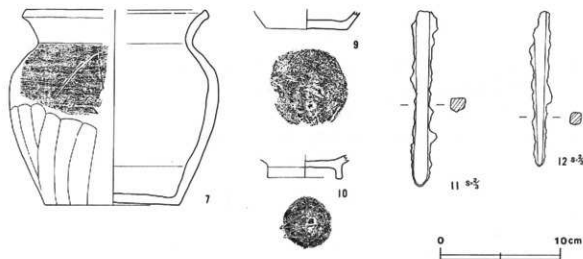
所見 本跡は、出土遺物から、平安時代(9世紀前半)の住居跡であると思われる。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10図 1	土師器 壺	A 19.9	体部から口縁部にかけての破片。体部は内傾しながら立ち上がり、口縁部は強く外反し、口縁端部はつまみ上げられる。口縁端部表下内・外面に沈線が通る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P14 20% 床面
		B 13.7				
		C 6.0				
2	須恵器 環	A 13.5	体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	体部内・外面クロコナデ。底部回転へう切り後、へうくり調整。	長石・石英 針状鉱物 灰色 良好	P15 70% 床面 底部にへう記号
		B 3.7				
		C 6.0				
3	須恵器 環	A [13.0]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	体部内・外面クロコナデ。底部回転へう切り後、へうくり調整。	長石・石英 針状鉱物 黄灰色 良好	P16 60% 覆土上
		B 3.2				
		C 6.8				
4	須恵器 杯	A [12.9]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	体部内・外面クロコナデ。底部回転へう切り後、へうくり調整。	長石・石英 針状鉱物 灰色 良好	P17 45% 覆土中層 底部にへう記号
		B 4.9				
		C 6.5				
5	須恵器 甕	A [16.8]	高台部から頸部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、頸部で上方に屈曲する。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面クロコナデ。底部回転へう切り後、高台部貼り付け。	長石・石英 針状鉱物 灰黄色 良好	P19 50% 覆土中層
		B 3.5				
		D 7.6				
		E 1.0				
6	須恵器 甕	A [16.6]	高台部から頸部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、頸部で上方に屈曲する。高台は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面クロコナデ。底部回転へう切り後、高台部貼り付け。	長石・石英 針状鉱物 灰褐色 良好	P20 45% 覆土下層 底部にへう記号
		B 3.5				
		D [9.0]				
		E 1.1				
第11図 7	須恵器 壺	A [15.0]	体部は内傾気味に立ち上がり、頸部は表線的に立ち上がり、口縁部はつまみ上げている。	口縁部・体部上内内・外西クロコナデ。体部下縁外面縦方向のへう削り、内面ナデ。底部へう削り調整。	長石・針状鉱物 黄灰色 良好	P21 80% 床面
		B 16.3				
		C 11.2				
第10図 8	須恵器 甕	A [30.7]	体部から口縁部にかけての破片。体部は表線的に立ち上がり、口縁部に至る。体部上位に把手が付く。	体部上半内・外面クロコナデ。体部下外面縦方向のへう削り、内面クロコナデ。穿孔部へう削り。	長石・針状鉱物 におい棕色 良好	P22 45% 焼土・袖部 多孔式
		B [30.0]				
		C [18.4]				



第10图 第3号住居跡出土遺物実測図(1)



第11図 第3号住居跡出土物実測図(2)

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第11図11	鉄釘	7.4	1.2	0.6	10.2	床面	M3
12	鉄線	6.5	1.0	0.5	5.5	床面	M4 鉄線の中基部と思われる。

第4号住居跡 (第12図)

位置 調査区中央部, A2h3区

重複関係 本跡は, 南部で第3号住居跡と重複している。本跡の覆土中に, 第3号住居跡の竈が構築されているので本跡が古い。

規模と平面形 長軸 (4.58m), 短軸 (0.9m) で方形と思われる。北部が調査区外であるので全容は把握できていない。

主軸方向 N-15°-W

壁 壁高は, 約50cmであり, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁下及び, 東西壁下で確認されているが, ほとんどの部分が調査区外のため詳細は不明である。上幅10~20cm, 下幅8~20cm, 深さ10cmであり, 断面形は逆U字状を呈する。

床 平坦で, ほぼ全面が踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁, P₂)。P₁は, 長径40cm, 短径25cmの楕円形で, 深さ15cmである。位置から考えて出入り口施設関連の柱穴と考えられる。P₂は, 長径65cm, 短径40cmの楕円形で, 深さ60cmであり, 柱底部を南に斜めに掘られている。類似する柱穴が他になく, 本住居跡に伴うものかどうか不明である。

覆土 13層からなり, 自然堆積である。

土層解説

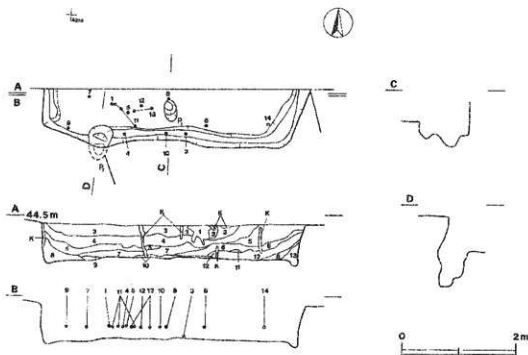
1 におい黄褐色	焼土粒子少量, ローム粒子・粘土粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
2 黒褐色	焼土粒子・粘土粒子少量, ローム粒子微量	8 黒褐色	焼土粒子・ローム粒子少量, 粘土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・粘土粒子微量	9 暗褐色	焼土粒子・ローム粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子・粘土粒子微量	10 暗灰黄色	ローム粒子少量, 焼土粒子微量
5 褐色	ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量		
6 黒褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量		

- 11 オリーブ褐色 ローム粒子少量、炭土粒子微量
 12 オリーブ褐色 ローム粒子少量、炭土粒子・炭化粒子微量

- 13 オリーブ褐色 ローム粒子多量、炭土粒子微量

遺物 弥生土器片5点、土師器片240点、須恵器片206点、不明鉄製品1点、鉄滓1点が出土している。第13図3の須恵器環は、南部床面から出土している。1の土師器甕、2、4～8の須恵器環、9、10の須恵器高台付環、11、12の須恵器盤、13の須恵器蓋、15の磁石は、いずれも覆土中より出土している。

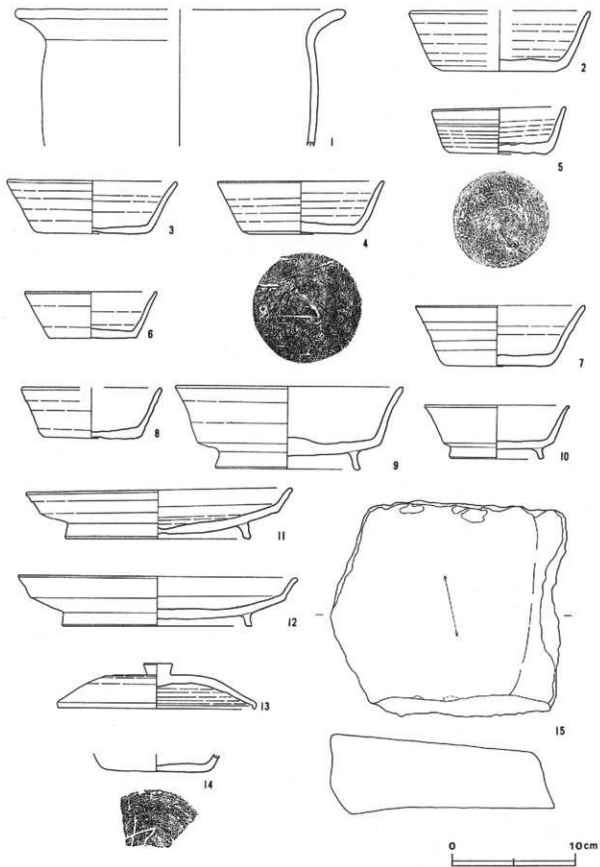
所見 本跡は、出土遺物から平安時代（8世紀後半）の住居跡と思われる。



第12図 第4号住居跡実測図

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第13図 1	甕 土師器	A [26.4] B [31.1]	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部で「く」の字状に外反する。口唇部は丸味をもつ。	体部、口縁部内・外面ナデ。	灰石・石炭・常磁 褐色 普通	P23 10% 覆土中層
2	環 須恵器	A [14.6] B 4.9 C [11.0]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り調整。口縁部回転へら削りによる二次底部面作り出し。	長石・針状鉱物 褐色 良好	P18 40% 覆土中層
3	環 須恵器	A 13.7 B 4.3 C 8.7	体部は外傾して直線的に立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り後、回転へら削り調整。口縁部回転へら削り調整。	長石・石英 針状鉱物 灰色 良好	P24 95% 床面
4	環 須恵器	A 13.4 B 1.3 C 9.6	体部は外傾して直線的に立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り後、へら削り調整。口縁部ナデ整形による二次底部面作り出し。	長石・雲母 灰色 良好	P25 80% 覆土中層 底部にへら記号
5	環 須恵器	A 10.7 B 4.0 C 7.8	体部は外傾して直線的に立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へら削り調整。口縁部回転へら削りによる二次底部面作り出し。	長石・石英 帯灰黄色 良好	P26 80% 覆土中層 底部にへら記号



第13图 第4号住居跡出土遺物実測図

区画番号	跡種	計測値(cm)	地形の特徴	子迹の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第13回 6	環 溝 遺 跡	A 10.7	体部は外傾して直線的に立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へつ削り調整。口縁部ナデ。	長石・石英 灰色 良好	P27 75% 覆土中層
		B 3.8				
		C 7.0				
7	環 溝 遺 跡	A 13.6	体部は外傾して直線的に立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へつ削り調整。口縁部ナデ。	長石・石英 灰黄色 普通	P28 70% 覆土中層
		B 5.0				
		C 8.6				
8	環 溝 遺 跡	A 11.3	体部は外傾して直線的に立ち上がり口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へつ削り調整。口縁部ナデ。	長石・石英 針状鉱物 灰色 良好	P29 60% 覆土中層
		B 4.1				
		C 8.0				
9	高台付環 溝遺跡	A 18.2	体部は外傾して立ち上がり、体部下 半に明瞭な縁をもつ。高台部は「ハ」 の字状に開く。	口縁部。体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へつ削り調整後、高台部貼 り付け。	長石・石英 針状鉱物 灰黄色 良好	P30 100% 覆土中層 体部は焼成時の 熱変化による裂 け目
		B 6.8				
		D 11.6				
		E 1.4				
10	高台付環 溝遺跡	A 11.6	体部は外傾して立ち上がり、口縁部 で広く外展する。体部下半に明瞭な 縁をもつ。高台部は「ハ」の字状に 開く。	口縁部。体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へつ削り調整後、高台部貼 り付け。	長石・石英 針状鉱物 灰黄色 良好	P31 80% 覆土中層
		B 4.3				
		D 7.2				
		E 0.9				
11	壁 溝遺跡	A 21.4	体部は外傾して立ち上がり、体部下 半に明瞭な縁をもつ。高台部は「ハ」 の字状に開く。	口縁部。体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へつ削り調整後、高台部貼 り付け。	長石・石英 針状鉱物 灰黄色 良好	P32 80% 覆土中層
		B 4.1				
		D 14.9				
		E 1.5				
12	壁 溝遺跡	A 22.4	体部は外傾して立ち上がり、体部下 半に明瞭な縁をもつ。高台部は「ハ」 の字状に開く。	口縁部。体部内・外面ロクロナデ。 底部回転へつ削り調整後、高台部貼 り付け。	長石・石英 針状鉱物 灰色 良好	P33 60% 覆土中層
		B 4.1				
		D 15.2				
		E 1.1				
13	蓋 痕遺跡	A 15.9	天井頂部は平坦で、扁平なつまみか 付く。天井部は縁や中に下降し、口 縁部で横曲し、鋭く垂下する。	天井部回転へつ削り。口縁部内・外 面ロクロナデ。	長石・石英 針状鉱物 灰黄色 良好	P34 70% 表面
		B 4.6				
		F 2.4				
		G 1.0				

区画番号	種	別	計 測 値				石 質	出土地点	備 考
			長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第13回15	磁	石	17.5	19.2	6.5	3202.7	硬砂岩	覆土中層	Q1

第5号住居跡(第14図)

位置 調査区東部、A2j1区。

規模と平面形 長軸(2.99m)、短軸(1.99m)で方形と思われる。本跡南部が調査区外のため、詳細な規模は不明である。

主軸方向 N-34°-W

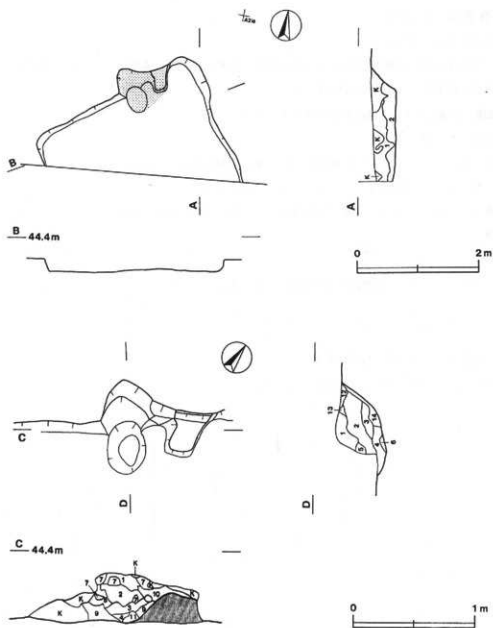
壁 壁高は約20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

竈 北壁東寄りや壁外に約40cmほど掘り込み、山砂と粘土で構築している。左側部は、壊されているものの遺存状態は良い。火床部は、床面をわずかに掘り窪めた程度で亦硬化している。煙道部は、火床から外傾して立ち上がる。覆土は、14層からなる。

遺土層解説

1	濃い黄褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、幾十粒子微量	5	褐色	幾十粒子中層、ローム粒子少量、粘土粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子中量、ローム粒子・粘土粒子微量	6	濃い褐色	ローム粒子多量、焼土粒子微量
3	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量、幾十粒子微量	7	黄褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒少量
4	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・粘土粒子微量	8	暗褐色	幾十粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量



第14図 第5号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------|---------|--------------|
| 9 オリーブ褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子微量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子微量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 13 黒暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量 |
| 11 明黄褐色 | ローム小アロック少量, ローム粒子中量 | 14 暗赤褐色 | 焼土粒子少量 |

覆土 2層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|------|----------------------|-------|----------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
|------|----------------------|-------|----------------------|

遺物 弥生土器片2点, 土師器片8点, 須恵器片12点が出土している。

所見 本跡は, 出土遺物が少なく, 時期は不明である。

第6号住居跡 (第15図)

位置 調査区中央部, A2j₂区。

重複関係 本跡は、西部で第28号土坑、第8号住居跡と重複している。本跡床面を、第8号住居跡、第28号土坑覆土上面に構築しているため本跡が新しい。

規模と平面形 長軸3.22m、短軸2.66mの長方形である。

主軸方向 N-20°-W

壁 壁高は、残存している部分で3cm程度であるため、詳細は不明である。

床 全面が軟弱であり、部分的にトレンチャーによる攪乱を受けている。

竈 北壁東寄りを壁外に30cmほど掘り込み構築しているが、火床部のみの確認である。

覆土層解説

1 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

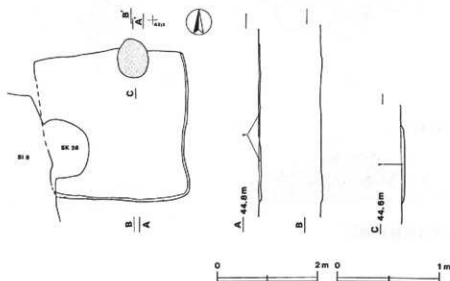
覆土 非常に薄く、1層のみの確認であり詳細は不明である。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 土師器片29点、須恵器片14点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なく、時期は不明である。



第15図 第6号住居跡実測図

第7号住居跡 (第16図)

位置 調査区中央部, B2a₂区。

重複関係 北部で第8号住居跡と重複している。本跡が、第8号住居跡の覆土を掘り込んで構築していることから本跡が新しい。

規模と平面形 長軸2.88m、短軸(1.9m)で方形と思われるが、南部が調査区外のため詳細は不明である。

主軸方向 N-11°-W

壁 壁高は15cmであり、垂直に立ち上がる。比較的しっかりしているのは、東壁のみである。

床 第8号住居跡覆土上面に構築されているため、ほとんどの部分が軟弱である。

竈 北壁中央部を、壁外に65cmほど掘り込み、山砂と粘土で構築されている。袖部は、一部攪乱を受けており、遺存状態はあまりよくない。火床部は、床面を20cm程度掘り込み赤変硬化している。煙道部は、火床部から外傾して立ち上がる。火床部に土製の支脚が、立位の状態出土している。覆土は、10層からなる。

覆土層解説

- | | |
|---------------------|----------------------------|
| 1 黒色 粘土粒子・焼土粒子多量 | 6 黒色 ローム粒子微量 |
| 2 黒色 粘土微粒子・焼土微粒子少量 | 7 黒色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 3 黒色 粘土粒子微量 | 8 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ローム小ブロック少量 | 9 濃い褐色 粘土小ブロック中量、ローム粒子少量 |
| 5 黒褐色 粘土粒子主体、焼土粒子微量 | 10 褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・焼土粒子少量 |

覆土 5層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|---------------------|---------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量 | 4 黒褐色 ローム粒子少量 |
| 2 黒色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 5 褐色 粘土粒子多量 |
| 3 黒褐色 ローム粒子多量 | |

遺物 土師器片19点、須恵器片3点、瓦石2点が出土している。第18図1の土師器甕は竈右袖部から、2の須恵器環は覆土中から、4、5の瓦石は覆土中からそれぞれ出土している。3の土製支脚は竈火床部に立位状態で出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代（9世紀前半）の住居跡と思われる。

第8号住居跡（第16図）

位置 調査区中央部、A2j区。

重複関係 本跡は、北西部で第9号住居跡と、南東部で第7号住居跡と重複している。第9号住居跡床面を掘り込んで構築しており、また、本跡覆土上面に第7号住居跡が構築されているので、第9号住居跡より新しく、第7号住居跡より古い。

規模と平面形 長軸3.64m、短軸3.09mの長方形である。

主軸方向 N-4°-W

壁 壁高は、60cmで、東・南壁はほぼ垂直に立ち上がり、北壁および西壁は内彎気味に立ち上がる。

床 はほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

覆土 覆土は4層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、焼土粒子少量 | 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量 | 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量、炭化粒子微量 |

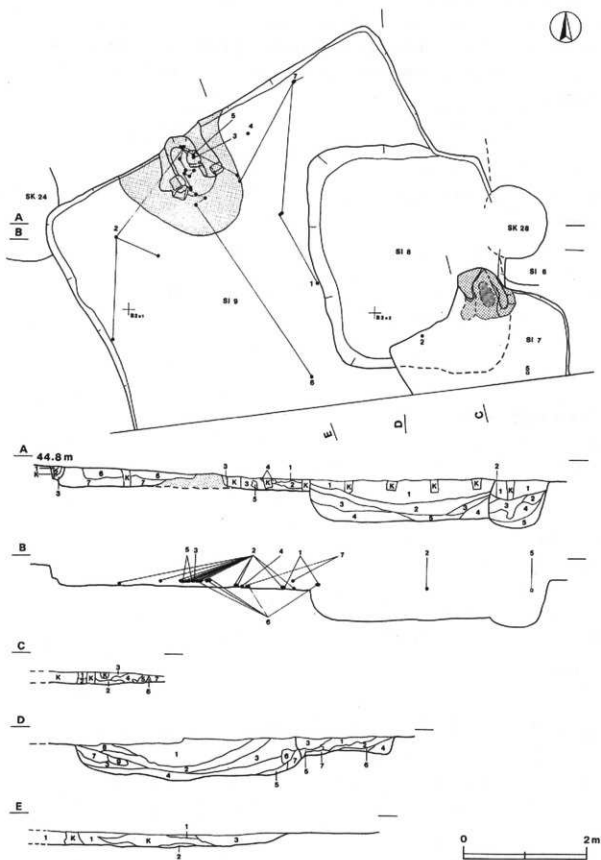
遺物 弥生土器片64点、土師器片640点、須恵器片94点が出土している。第19図1の須恵器高台付環は、覆土中からの出土である。

所見 本跡は、住居跡として取り扱ったが、床及び壁の様子から判断すると、住居跡ではなく倉庫的な建物の可能性がある。本跡の時期は、出土遺物および重複関係から平安時代（9世紀前半）と思われる。

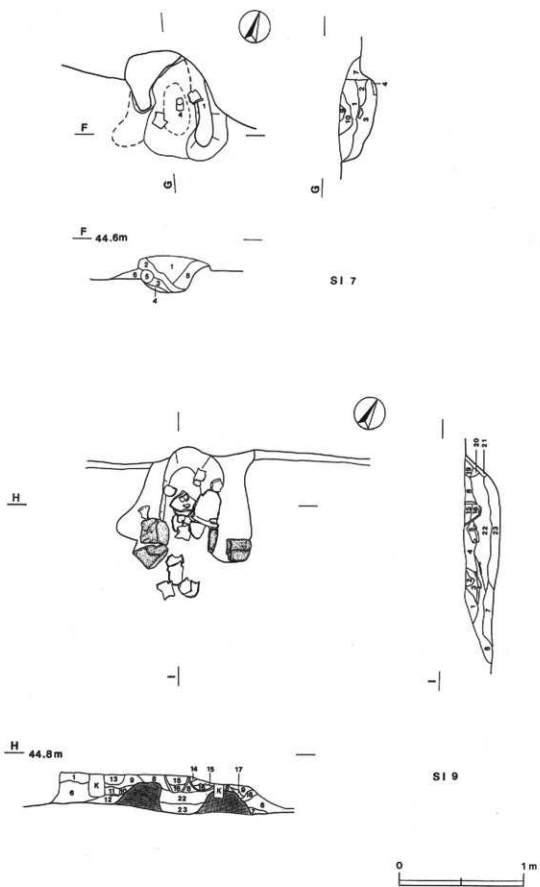
第9号住居跡（第16図）

位置 調査区中央部、A2j区。

重複関係 東部で、第8号住居跡と重複している。本跡の覆土を、第8号住居跡が掘り込んでいるので本跡が



第16图 第7·8·9号住居跡実測図



第17图 第7・9号住居跡窟窿実測図

古い。

規模と平面形 長軸6.27m, 短軸(5.28m)で方形と思われる。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は、20-30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。南壁及び東壁の一部は、重複及び調査区外のため不明である。

床 ほぼ平坦であり、中央部は踏み固められている。

竈 北壁西側寄りを、壁外に約10cmほど掘り込み山砂と粘土で構築されている。袖部の遺存状態はよい。火床部は、床面をわずかに掘り窪めた程度で、赤変硬化している。煙道部は、火床部から緩やかに外傾して立ち上がる。覆土は、23層からなる。

竈土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 黒褐色 粘土粒子多量 | 13 濃い黄褐色 粘土ブロックである |
| 2 褐色 粘土粒子多量 | 14 褐色 火熱を受けた山砂礫である |
| 3 黒褐色 粘土微粒子少量 | 15 褐色 焼土粒子少量、砂質(土器内埋土) |
| 4 暗赤褐色 粘土粒子・焼土粒少量 | 16 褐色 火熱を受けた山砂礫(土器内埋土) |
| 5 暗赤褐色 焼土粒子多量 | 17 暗褐色 焼土粒子少量、砂質 |
| 6 黒褐色 粘土微粒子多量 | 18 濃い黄褐色 山砂礫である |
| 7 黒褐色 粘土微粒子・焼土微粒子多量 | 19 暗褐色 焼土粒子少量、砂質 |
| 8 暗褐色 粘土粒子多量 | 20 褐色 焼土ブロックである |
| 9 暗褐色 粘土粒子・焼土粒子少量、砂質 | 21 黒褐色 焼土粒子多量、砂質 |
| 10 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、砂質 | 22 暗赤褐色 焼土小・中ブロック少量、灰質 |
| 11 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子少量、砂質 | 23 暗褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量、砂質 |
| 12 暗赤褐色 焼土小ブロック多量、砂質 | |

覆土 7層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

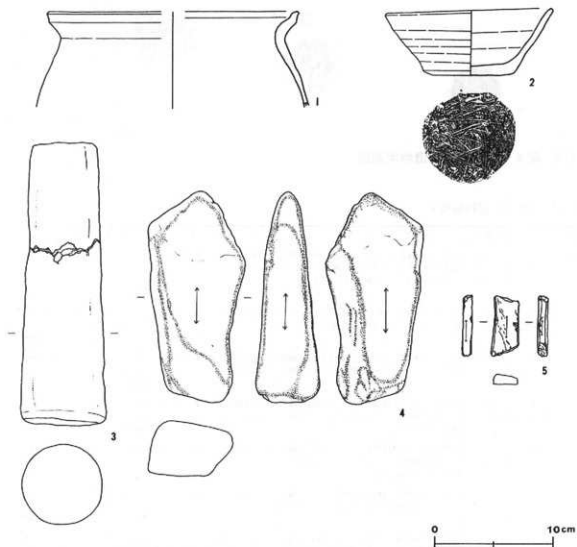
- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子・粘土粒少量、焼土粒子少量 | 5 褐色 ローム粒少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子・粘土粒少量 | 6 褐色 ローム粒子・粘土粒少量、焼土小ブロック少量 |
| 3 褐色 ローム粒子・粘土粒少量 | 7 褐色 ローム粒子・粘土粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量 |
| 4 褐色 ローム粒子・粘土粒少量、黒色粒少量 | |

遺物 弥生土器片16点、土師器片207点、須恵器片20点、陶器片1点が出土している。第20図1の土師器坏、2の土師器甕、4の土師器甕は竈周辺の床面から、3の土師器甕は竈上部から、5の土師器甕は覆土下層から、6の土師器甕は、笑口部からそれぞれ出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代後期(6世紀後半)の住居跡と思われる。

第7号住居跡出土遺物観察表

図数番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第18図 1	土師器 上 鉢	A 12.0 B 8.0	休部上半から口縁部にかけての口片、休部は内彎して立ち上がり、口縁部で「く」の字状に外反する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。休部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母に多い褐色普通	P35 10% 龍石袖
2	坏 須恵器	A 14.0 B 5.0 C 6.3	休部は外傾しながら立ち上がり、口縁部で強く外反する。	休部内・外面ロクロナデ。底部・胴縁部子持ちへつ削り整形。	長石・石英に多い黄褐色普通	P36 100% 床面 底部にへつ記号



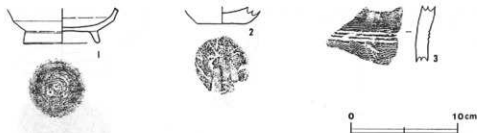
第18図 第7号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第18図3	支脚	23.8	7.2	6.7	1373.5	壺内	DP2

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第18図4	砥石	17.8	8.2	5.4	819.9	砂岩	覆土中層	Q2
5	砥石	(5.1)	2.4	0.8	(16.1)	花崗岩	覆土中層	Q3

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手状の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第19図1	高台付埴土器	B (3.1) D 7.2 E 1.1	底部から体部下端にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、底部との境に明瞭な線をもつ。高台部は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナシ。底部回転ヘラ削り後、高台部貼り付け。	粘土・針状鉱物 灰色 良好	P37 60% 覆土中層 底層にヘラ記号



第19図 第8号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第20図 1	坏 土師器	A [12.3] B 3.2 C [6.7]	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に線をもち、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ナデ、外面へラ削り。	長石・石英 スコリア にふいぶ色 普通	P38 40% 床面
2	壺 土師器	A 18.0 B (29.2)	底部から口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にふいぶ色 普通	P39 65% 床面 体部外面厚減
3	壺 土師器	A [20.9] B 25.8 C 5.7	底部から口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英 にふいぶ色 普通	P40 50% 壺部
4	壺 土師器	A 17.0 B (11.9)	体部上半から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面側方向のへラ削り、内面ナデ。	長石・石英 にふいぶ色 普通	P41 35% 床面
5	壺 土師器	A [17.7] H (16.2)	体部下半から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で弱く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P42 20% 覆土下層
6	瓶 土師器	A 22.2 B 23.6 C 8.1	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部で強く外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラ削き。	長石・針状鉱物 にふいぶ色 普通	P43 70% 壺内 体部外面厚減
7	高台付坏 須恵器	A [13.7] B 3.9 D [9.6] E 0.6	体部はほぼ垂直に立ち上がり、口縁部で弱く外反する。体部下端に明確な線をもち、高台部は低く、「ハ」の字状に開く。	口縁部。体部内・外面クロコナデ。底部回転へラ削り後、高台部貼り付け。	長石・石英 針状鉱物 黄灰色 良好	P44 45% 覆土中層

第10号住居跡 (第21図)

位置 調査区西側，B1a9区。

重複関係 本跡は、西部で第12号住居跡と重複している。第12号住居跡が、本跡の覆土を掘り込んでいるので本跡が古い。

規模と平面形 長軸4.58m，短軸(2.41m)で方形と考えられるが、南側が調査区外であり、また、南西コーナー部分が視乱を受けているため詳細は不明である。

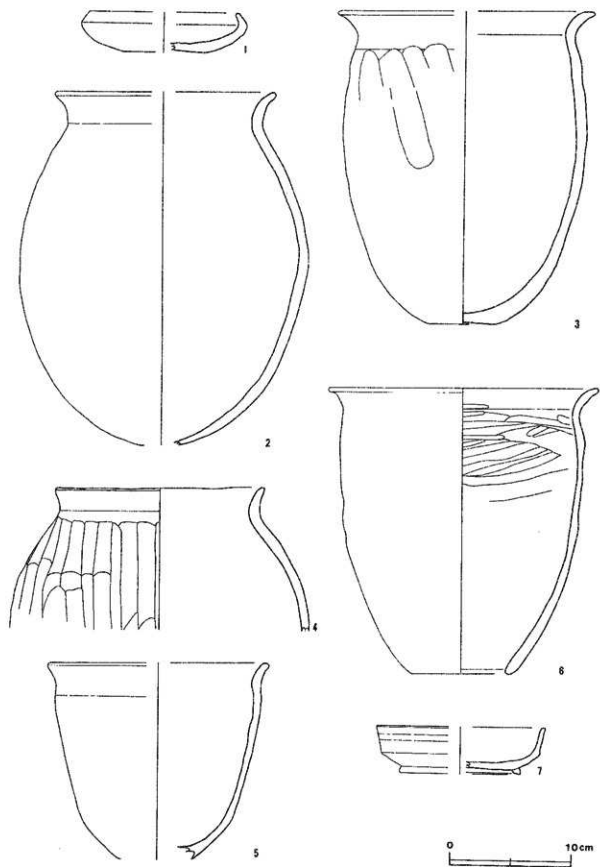
主軸方向 N-13°-W

壁 壁高は、5cmと浅く詳細は不明である。

床 ほぼ平坦であり、一部視乱を受けているが全面が踏み固められている。

ピット 4か所(P1~P4)。P1は、径60cm前後の不整形円で、深さ22cm。P2は、径40cmの円形で、深さ70cm。

P3は、径35cmの円形で、深さ27cm。P2、P3は、重複しており、掘り方の形状からP2が新しいものと考えられる。P4は、直径75cmの円形と思われるが、南部が調査区外のため詳細は不明である。深さは、44cmであ



第20图 第9号住居跡出土遺物実測図

る。P₁は、主柱穴、P₂～P₄は補助柱穴と考えられる。

覆土 3層からなり、自然堆積と考えられる。

土層解説

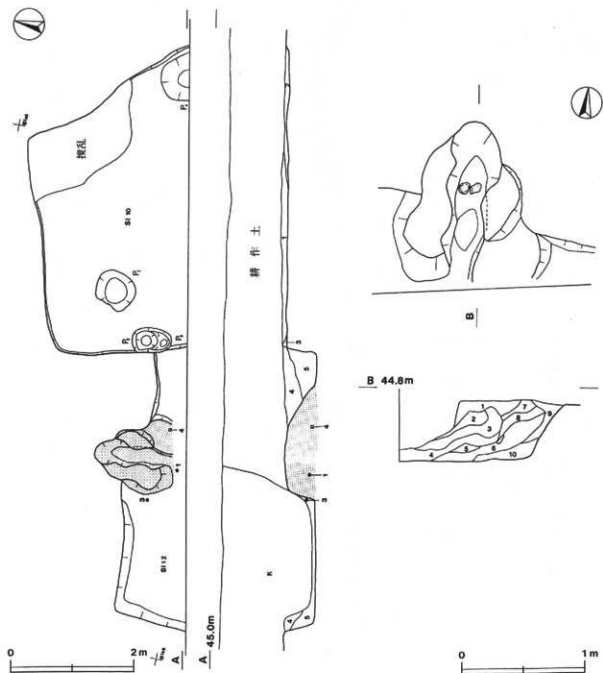
1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・焼土粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

遺物 土師器片12点、須恵器片11点が出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なく、時期は不明である。



第21図 第10・12号住居跡実測図

第12号住居跡（第21図）

位置 調査区西部，B1a区。

重複関係 本跡の東部で、第10号住居跡と重複している。本跡が、第10号住居跡の覆土を掘り込んでるので新しい。

規模と平面形 長軸4.5m、短軸（1.05m）で方形と思われるが、南部のほとんどが調査区外のため、詳細は不明である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は、50cm前後で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 竈前面部のみの確認であるが、平坦で踏み固められている。

竈 北壁中央部を、壁外に70cmほど掘り込み、山砂と粘土で構築されている。竈の西及び南側に攪乱が見られたが、袖部の遺存状態は比較的よい。火床部は、床面をわずかに掘り窪めた程度で赤変硬化している。煙道部は、緩やかに外傾して立ち上がる。覆土は、10層からなる。

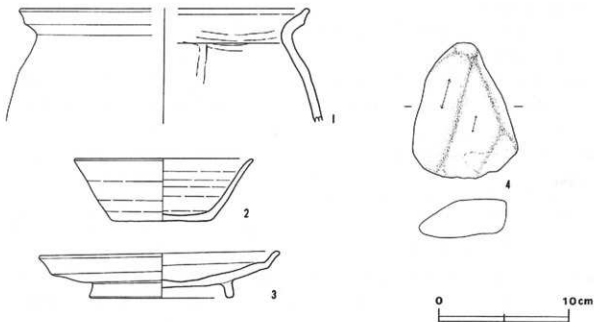
覆土層解説

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 黒褐色 焼土小ブロック少量、粘土質 | 6 赤褐色 焼土小ブロックを主体とし、灰質 |
| 2 褐色 焼土粒子微量、粘土質 | 7 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量、粘土質 |
| 3 褐色 焼土粒子少量、粘土質 | 8 褐色 焼土粒子微量、粘土質 |
| 4 暗褐色 焼土粒子・炭化物(木炭)少量、粘土質 | 9 黒褐色 ローム粒子少量、粘性有り |
| 5 黒褐色 焼土粒子少量、灰質 | 10 褐色 ローム小ブロック少量、粘性有り |

覆土 2層からなり、自然堆積と考えられる。10号住居跡との重複であり、当住居跡の覆土は4・5層にあたる。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 4 暗褐色 粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、砂質を帯びる | 5 褐色 粘土粒子・焼土粒子・ローム粒子少量、砂質を帯びる |
|-------------------------------|-------------------------------|



第22図 第12号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片128点, 須恵器片8点, 砥石1点, 鉄滓1点が出土している。第22図1の七師器甕, 2の須恵器環は, いずれも覆土中から出土している。3の須恵器甕は, 甕西側から出土している。

所見 本跡は, 出土遺物から平安時代(9世紀前半)の住居跡と思われる。

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第22図 1	甕 土師器	A 22.0 B (8.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内押しで立ち上がり, 口縁部で「く」の字状に屈曲する。口縁部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 にふい赤褐色 青濁	P52 10% 覆土下層
2	坏 須恵器	A 13.6 B 4.8 C 7.8	体部は重層的に立ち上がり, 口縁部で強く外反する。	口縁部。体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ切り後, ヘラ削り。底部斜縁部ヘラ削り成形。	長石・針状鉱物 灰色 良好	P53 80% 覆土中層
3	甕 須恵器	A 18.2 R 3.6 D 11.0 E 1.3	体部は外傾して立ち上がり, 体部下に明瞭な段をもつ。高台部は「へ」の字状に開く。	口縁部。体部内・外面クロコナデ。底部回転ヘラ削り後, 高台部取り付け。	長石・石英 針状鉱物 暗所黄色 良好	P54 98% 甕

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	産量(R)			
第22図4	砥石	10.4	8.1	3.0	288.2	砂岩	甕	Q6

第11号住居跡(第23図)

位置 調査区西部, A11isド。

重複関係 本跡は, 南部で第13号土坑と重複している。第13号土坑が, 本跡覆土を掘り込んでいるので本跡が占む。

規模と平面形 長軸5.03m, 短軸(2.57m)で方形と思われるが, 北側部が調査区外なため詳細は不明である。

主軸方向 N-3°-W

壁 壁高は, 30~50cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 3か所(P₁~P₃)。P₁は, 径30cmのはしご円形で, 深さは53cm。P₂は, 径30cmの円形で, 深さは66cm。

P₃は, 径35cmの円形で, 深さは30cm。P₁, P₂は主柱穴と考えられる。P₃は, 出入り口施設関連の柱穴と考えられる。

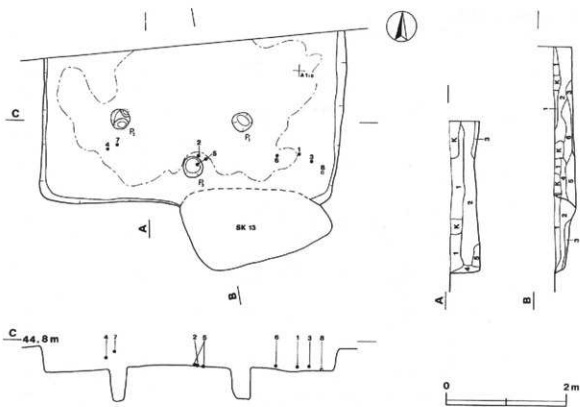
覆土 6層からなり, 自然堆積である。

土層解説

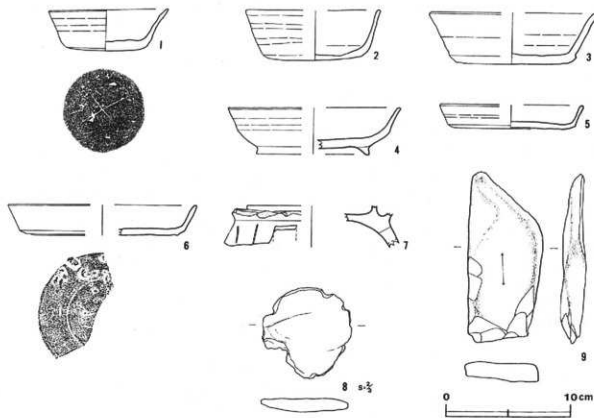
- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|--------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量, 炭土粒子微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・焼土粒子少量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 砂質を帯びる | 6 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 |

遺物 土師器片236点, 須恵器片85点, 石製模造品1点, 円面硯1点が出土している。第24図2, 5の須恵器環は, 南部床面から, 1, 3, 6の須恵器環, 4の高台付坏, 7の円面硯は, いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡は, 出土遺物から平安時代(8世紀後半)の住居跡と思われる。



第23图 第11号住居跡実測図



第24图 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	寸法(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第24回 1	坏 須忠器	A 9.7	体部はわずかに外反しながら立ち上がり、口縁端部に至る。器部は丸底気味である。	体部内・外面ロクロナテ。底部下端ナテ。底部平坦へラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 良好	P45 90% 覆土下層 底部にへラ記号
		B 3.5				
		C 5.7				
2	坏 須忠器	A [10.9]	体部は外傾して立ち上がり、口縁端部に至る。	体部内・外面ロクロナテ。底部下端ナテ。底部平坦へラ削り。	長石・石英 針状鉱物 灰色 良好	P46 70% 床面 体部焼成時添ふ
		B 4.1				
		C 7.9				
3	坏 須忠器	A [13.1]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナテ。底部下端ナテ。底部平坦へラ削り。	長石・石英 良好	P47 40% 覆土下層
		B 4.2				
		C 8.8				
4	高台付坏 須忠器	A [13.8]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり。体部下平に破をもつ。高台部は「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナテ。底部平坦へラ削り後、高台部貼付付。	長石・針状鉱物 灰褐色 良好	P48 40% 覆土中層
		B 3.8				
		D [9.1]				
		E 0.6				
5	坏 須忠器	A [11.3]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾し、直線的に立ち上がり、口縁部に出る。	体部内・外面ロクロナテ。底部下端ナテ。底部平坦へラ削り。	長石・針状鉱物 灰色 良好	P49 55% 床面 坏B層
		B 2.0				
		C 10.0				
6	坏 須忠器	A [15.0]	底部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ロクロナテ。底部平坦へラ削り。	長石・針状鉱物 灰色 良好	P50 40% 覆土下層 坏B層
		B 2.5				
		C [11.0]				
7	内面破 須忠器	B (3.1)	臀部上位に、条の隆帯をもつ。頸部部の2か所にスリットがある。スリット間に4(5)本の刻みをもつ。	臀部内・外面ロクロナテ。スリット部へラ切り。	長石・針状鉱物 灰黄色 良好	P51 15% 覆土上層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第24回B	石製模造品	3.7	3.6	0.6	9.8	滑石	覆土中	Q4
9	磁石	13.8	5.0	1.5	188.4	粘板岩	床面	Q5

第13号住居跡 (第25回)

位置 調査区西部, A1j区。

規模と平面形 長軸4.28m, 短軸3.79mの方形である。

主軸方向 N-19°-E

壁 壁高は、30cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

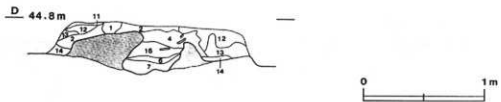
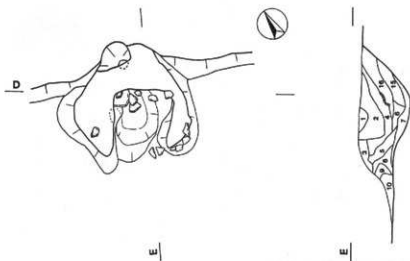
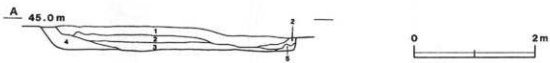
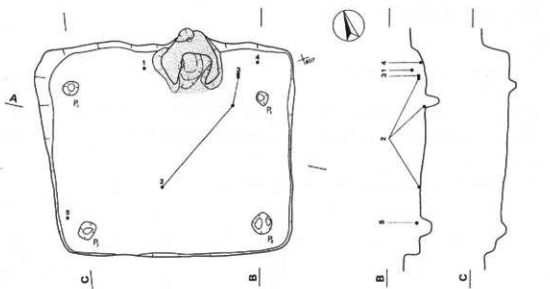
床 ほぼ平坦であり、全体的に踏み固められている。

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁は、径20cmの円形で、深さ25cm。P₂は、径30cmの円形で、深さ20cm。P₃は、径30cmの円形で、深さ10cm。P₄は、径20cmの円形で、深さ10cm。いずれも、主柱穴と考えられる。

竪 北壁中央部を壁外に20cmほど掘り込み、山砂と粘土で構築されている。袖部の遺存状態は良い。火床部は、床面を約10cmほど掘り深め赤変質化している。煙道部は、火床部からほぼ垂直に立ち上がる。覆土は、16層からなる。

覆土層解説

1	暗褐色	黑色土粒子少量、粘土質	9	褐色	粘土
2	黒褐色	ローム粒子少量、粘土質	10	褐色	ローム中ブロック多量
3	黒褐色	粘土粒子少量	11	黒色	ローム粒子少量
4	黒褐色	ローム粒子少量、粘土質	12	褐色	粘土
5	暗褐色	焼土小ブロック多量、灰質	13	黒褐色	ロームブロック少量
6	黒色	焼土粒子・ローム粒子少量	14	黒色	ローム小ブロック多量、焼土粒子少量
7	暗赤褐色	ローム粒子少量、粘土質	15	暗赤褐色	焼土粒子多量、灰質
8	黒褐色	ローム粒子・粘土粒子少量	16	赤褐色	焼土粒子多量、ローム小ブロック多量



第25图 第13号住居跡実測图

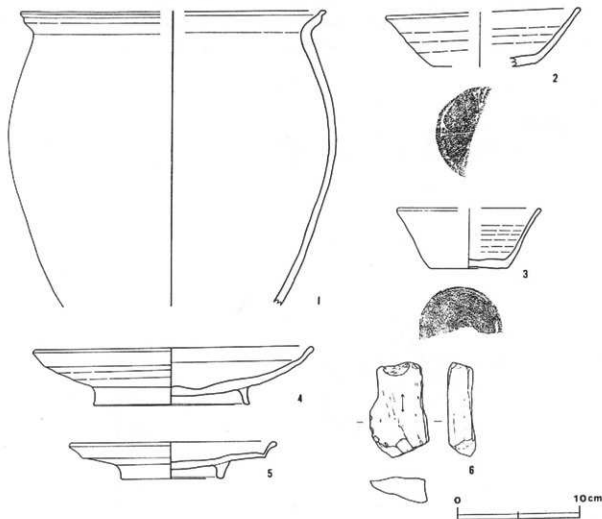
覆土 5層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| 1 黒色 ローム微粒子多量 | 4 黒色 焼土小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒色 ローム微粒子多量、焼土粒子・黒色土小ブロック少量 | 5 褐色 ロームブロック主体 |
| 3 黒褐色 ローム微粒子多量 | |

遺物 弥生式土器片11点、土師器片167点、須恵器片13点、砥石1点が出土している。第26図1の土師器甕、2の須恵器杯、4の須恵器盤は、いずれも床面から、3の須恵器杯は竈東側から出土している。5の須恵器盤は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代（9世紀前半）の住居跡と思われる。



第26図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図 1	甕 土師器	A [24.6] B (23.9)	体部下端から口縁部にかけての破片。体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部で「く」の字状に屈曲する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 灰色 普通	P55 60% 床面

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第26図2	坏須恵器	A [13.8] B 4.8 C [8.2]	体部は外傾して立ち上がり、口縁部で強く外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り後、手持ちへラ削り調整。	長石・石英針状鉱物 灰色 良好	P56 60% 床面 底部にへラ記号
3	坏須恵器	A [11.4] B 4.9 C [6.4]	体部は外傾して立ち上がり、体部中央でわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り調整。	長石・石英針状鉱物 灰色 良好	P57 40% 後上下層 底部にへラ記号
4	聚須恵器	A 22.4 B 4.8 D 12.5 E 2.0	体部は外傾して立ち上がり、体部下半に稜をもつ。高台部は「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り後、高台部削り付け。	長石・石英針状鉱物 灰色 良好	P58 90% 床面
5	盤須恵器	A 16.3 B 2.9 D 8.2 E 1.4	体部は外傾して立ち上がり、体部下半に稜をもつ。高台部は内側気味に付け。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り後、高台部削り付け。	長石・針状鉱物 灰色 良好	P59 90% 腹下層

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第26図6	磁石	7.7	4.8	2.3	100.1	泥岩	壺内	Q7

表2 住居跡一覧表

住居番号	位置	寸法(長×幅×高) (m)	平面形	底積(㎡) (長×幅)	壁高 (m)	体積 (m³)	内部構造				築上	出土遺物	備考 (詳細図表)	
							敷	床	柱	出入口				
1	A 24h	N 22°-W	正方形	4.99 × 4.81	16-21	平均	一部	0	0	0	1	-	自然土階層、須恵器、鉄製品	
2	A 24h	N-89°-E	長方形	3.18 × (2.35)	27-47	平均	完全	2	0	2	0	0	自然土階層、須恵器、鉄製品、鉄押	SK-11, 12より古い
3	A 24h	N 18°-W	正方形	3.80 × 3.68	30	平均	一部	0	0	0	0	1	自然土階層、須恵器、鉄製品	SI-4より古い
4	A 24h	N 13°-W	(方形)	4.38(×0.90)	50	平均	一部	0	0	1	1	1	自然土階層、土器類、須恵器、鉄押	SI-3より古い
5	A 24j	N 34°-W	(方形)	2.99(×2.12)	29	平均	無	0	0	0	0	1	自然土階層、土師器、須恵器	
6	A 24j	N 30°-W	長方形	3.22 × 2.95	3	平均	無	0	0	0	0	1	不明土階層、須恵器	
7	B 24a	N 11°-W	(方形)	2.88 × (1.90)	15	平均	無	0	0	0	0	1	人為土階層、須恵器、石英岩	SI-8より古い
8	A 24j	N 4°-W	長方形	3.64 × 2.69	60	平均	無	0	0	0	0	0	自然土階層、土師器、須恵器	SI-7より古い、 SI-9より新しい
9	A 24j	N 28°-W	(方形)	6.27 × (5.28)	20-30	平均	無	0	0	0	0	1	自然土階層、土師器、須恵器、鉄押	SI-8より古い
10	B 14a	N 13°-W	(方形)	4.58 × (2.41)	5	平均	無	1	0	3	0	0	自然土階層、須恵器	SI 12より古い
11	A 14a	N 3°-W	(方形)	5.03 × (2.57)	30-36	平均	無	2	0	0	1	-	自然土階層、須恵器、石製品	SK 13より古い
12	B 14a	N 7°-W	(方形)	4.5 × (1.03)	50	平均	無	0	0	0	0	1	自然土階層、須恵器、石製品、鉄押	SI-10より新しい
13	A 14j	N 19°-E	正方形	4.28 × 3.79	30	平均	無	4	0	0	0	1	自然土階層、土師器、須恵器、石製品	

2 土坑

当遺跡からは、土坑が37基検出されている。ここでは時代が推定できるものや、特徴的なものについて記述し、他は一覧表に掲載する。

第2号土坑（第27図）

位置 調査区東端，A2i₀区。

規模と平面形 径約0.9mの円形である。

主軸方向 N-56°-W

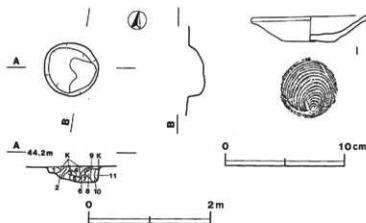
壁面 壁高は約25cmで、外傾して立ち上がる。

底面 皿状を呈する。

覆土 11層からなり、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------|--------|--------------|
| 1 黄褐色 | ローム粒子少量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック微量 | 10 赤褐色 | ローム粒子微量 |
| 3 赤褐色 | ローム粒子微量 | 11 褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 黒色 | ローム粒子中量 | | |
| 5 褐色 | 黒色土粒子微量 | | |
| 6 褐色 | ローム粒子微量 | | |
| 7 暗褐色 | ローム粒子少量 | | |
| 8 暗赤褐色 | ローム粒子微量 | | |



第27図 第2号土坑・出土遺物実測図

遺物 土師器片7点が出土している。第27図1の土師器坏は、覆土中層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代（10～11世紀）の土坑と思われる。

第2号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第27図 1	坏 土師器	A 9.7 B 2.3 C 4.3	平底。体部は外傾して立ち上がり、 口縁部で外反する。	口縁部、体部内・外面横ナデ、底部 回転糸切り。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P60 70% 覆土中

第23号土坑（第28図）

位置 調査区中央部，A1i₀区。

規模と平面形 長径3.12m，短径1.45mの不整楕円形である。

主軸方向 N-77°-E

壁面 壁高は約10cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほよ平坦である。

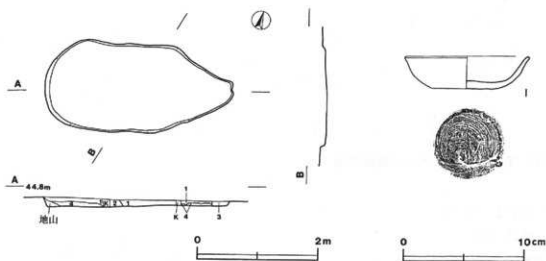
覆土 4層からなり、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量 | 3 褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子・ローム中ブロック中量 |

遺物 土師器片6点，須恵器片1点が出土している。第28図1の土師器坏は、底面から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代（10～11世紀）の土坑と思われる。



第28図 第23号土坑・出土遺物実測図

第23号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第28図 1	環 土器	A 10.1 B 2.0 C 5.2	平底。体部は内脣しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部、体部内・外面横ナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母 褐色 普通	P61 80% 覆土中

第24号土坑（第29図）

位置 調査区中央部，A1j0区。

規模と平面形 長径2.74m，短径1.27mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-24°-W

壁面 壁高は約25cmで，なだらかに立ち上がる。

底面 はほぼ平坦である。

覆土 2層からなり，自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

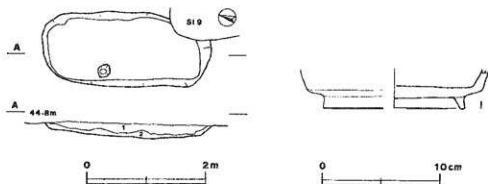
2 暗褐色 ロームアブロック・ローム粒子中量

遺物 土師器片8点，須恵器片2点が出土している。第29図1の須恵器高台付坏は，底面から出土している。

所見 本跡は，出土遺物が少なく詳細は不明であるが，平安時代（8世紀後半から9世紀前半）の土坑と思われる。

第24号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	高台付坏 須恵器	B (3.4) D [12.0] E 1.1	体部，口縁部欠損。底部と体部の境は線をなして屈曲し，体部はわずかに外傾して立ち上がる。高台部は，「ハ」の字状に開く。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後，高台部貼り付け。	長石・針状鉱物 褐灰色 良好	P62 40% 覆土中



第29図 第24号土坑・出土遺物実測図

第25号土坑 (第30図)

位置 調布区西部, A11;区。

重複関係 北部で, 第26号土坑と重複している。本跡が, 第26号土坑の覆土を掘り込んでいるので新しい。
規模と平面形 径約1.30mの円形である。

主軸方向 N-18°-W

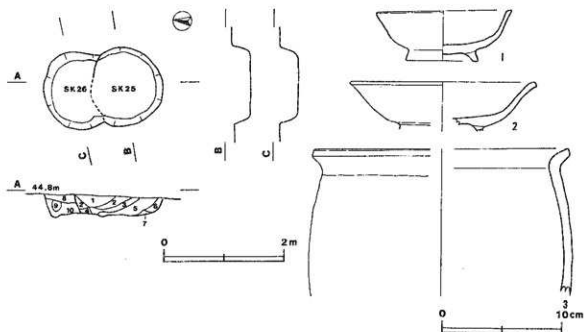
壁面 壁高は約30cmで, 外傾して立ち上がる。

底面 はほぼ平坦である。

覆土 7層からなり, 人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子多量 | 5 極暗褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子多量 | 6 黒褐色 ローム小ブロック多量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子多量 | 7 極暗褐色 ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム小ブロック少量 | |



第30図 第25・26号土坑・出土遺物実測図

遺物 土師器片34点、須恵器片2点が出土している。第30図1の土師器高台付坏、2の須恵器高台付坏、3の土師器甕は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から平安時代（11世紀代）の土坑と思われる。

第25号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第30図 1	高台付坏 土師器	A 11.0 B 4.3 D 5.9 E 0.9	体部は内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反する。高台部は、「ハ」の字状に開く。	口縁部、体部内・外面へラ磨き。口縁部回転へラ磨り後、高台部貼り付け。	長石・スコリア 褐色 普通	P63 70% 覆土中
2	高台付坏 須恵器	A 15.0 B (4.1) E (0.5)	高台部欠損。体部は、内彎気味に立ち上がり、口縁部で外反する。	口縁部、体部内・外面横ナデ。口縁部短部、回転へラ磨り調整。底部回転へラ磨り後、高台部貼り付け。	長石・石英 棕色 普通	P64 70% 覆土中
3	甕 土師器	A [21.0] B (12.2)	底面から体部下端欠損。体部は、内彎気味に立ち上がり、口縁部でくゞの字状に屈曲する。	口縁部、体部内・外面横ナデ。口縁部短部へラナデ後、横ナデ。	長石・石英 褐色 普通	P65 10% 覆土中

第28号土坑（第31図）

位置 調査区中央部、A 2 j 2区。

重複関係 西部で、第8号住居跡と重複している。第8号住居跡が、本跡の覆土を掘り込んでいるので木跡が古い。

規模と平面形 径約1.20mの円形である。

主軸方向 N-29°-W

壁面 壁高は約80cmで、外傾して立ち上がる。

底面 皿状を呈する。

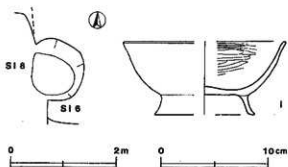
覆土 5層からなり、人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------------|------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子少量 | 4 褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム中ブロック多量、ローム粒子・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 | | |

遺物 土師器片3点、須恵器片1点が出土している。第31図1の土師器高台付坏は、覆土中から出土している。

所見 本跡は、出土遺物が少なく、詳細は不明であるが、土師器高台付坏の特徴から平安時代（10世紀代）の土坑と思われる。



第31図 第28号土坑・出土遺物実測図

第28号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	高台付杯 上脚器	A [14.9] B 7.0 D [9.2] E 1.9	高台部から口縁部にかけての破片。 体部は、内埋して立ち上がり、口縁部 でわずかに外反する。高台部は、「ハ」 の字状に開く。	口縁部、体部、底部内面へう磨き。 口縁部、体部外面貫十字。底部足趾 へう切り後、高台部貼り付け。	長石・スコリア 黄褐色 普通	P66 60% 覆土中

第35号土坑 (第32図)

位置 調査区中央部, B1a0区。

規模と平面形 長径約0.95m, 短径約0.80mの楕円形である。

主軸方向 N-4°-W

壁面 壁高は約20cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 皿状を呈する。

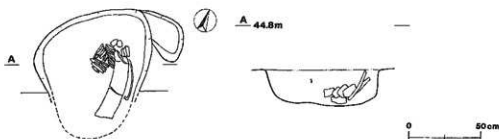
覆土 単一層であり、人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

遺物 灰釉陶器(花瓶) 1点, 砥石 1点, 刀子 1点, 甲冑の小札等152点が出土している。第33図1の灰釉陶器(花瓶), 2の砥石, 3の刀子は、小札と共に底面より出土している。

所見 本跡は、出土遺物(灰釉陶器花瓶)から13世紀後半の土坑と考えられる。

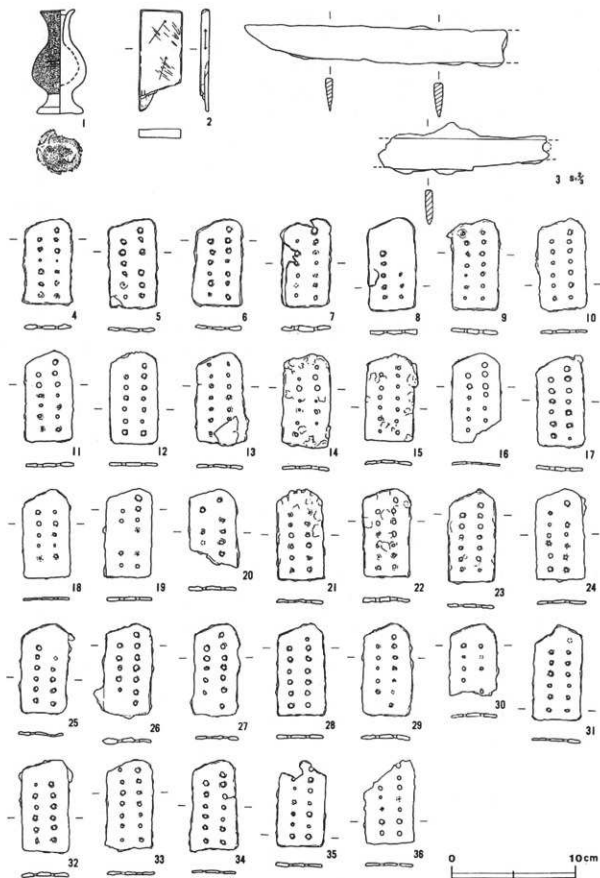


第32図 第35号土坑実測図

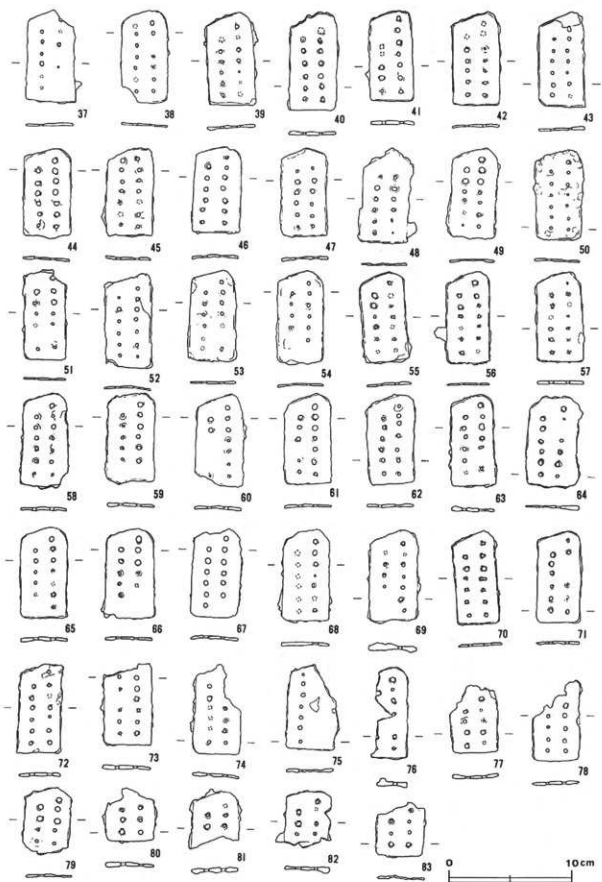
第35号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第33図 1	花瓶 灰釉陶器	A 3.0 B 8.4 D 3.8 E 1.8	体部は、丸味をもって立ち上がる。 底部は直線的に立ち上がり、口縁部 で外反する。脚部は、「ハ」の字状 に強く張り出す。	口縁部から脚部ロクロナデ。底部は 砥石切り。口縁部内・外面および体 部下部にかけて漬ける桜付け釉。脚部 無釉。	長石細粒 灰白色 良好	P67 95% 底面

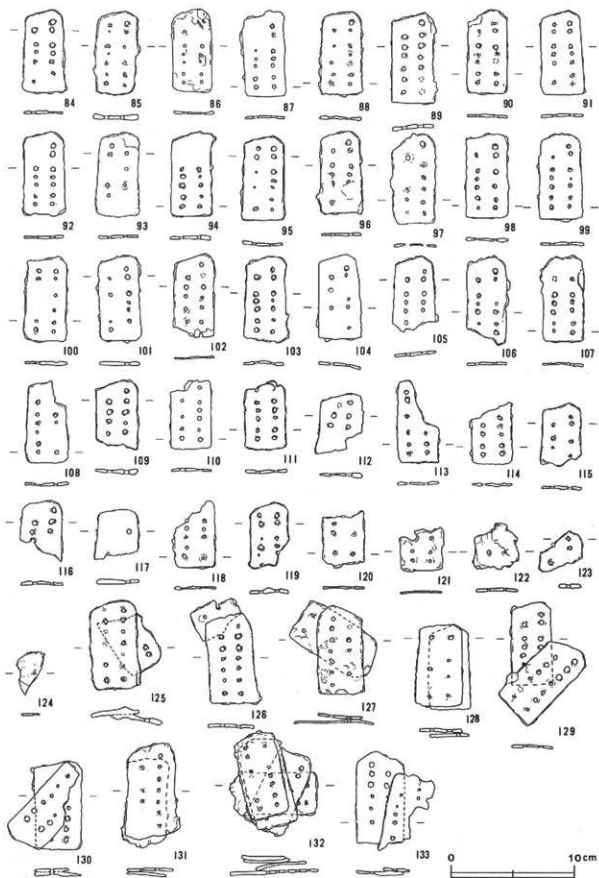
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第33図2	砥石	(8.3)	3.4	0.6	34.5	鳴滝石	底面	Q13
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第33図3	刀子	17.8	1.6	0.4	28.7	底面	M5	



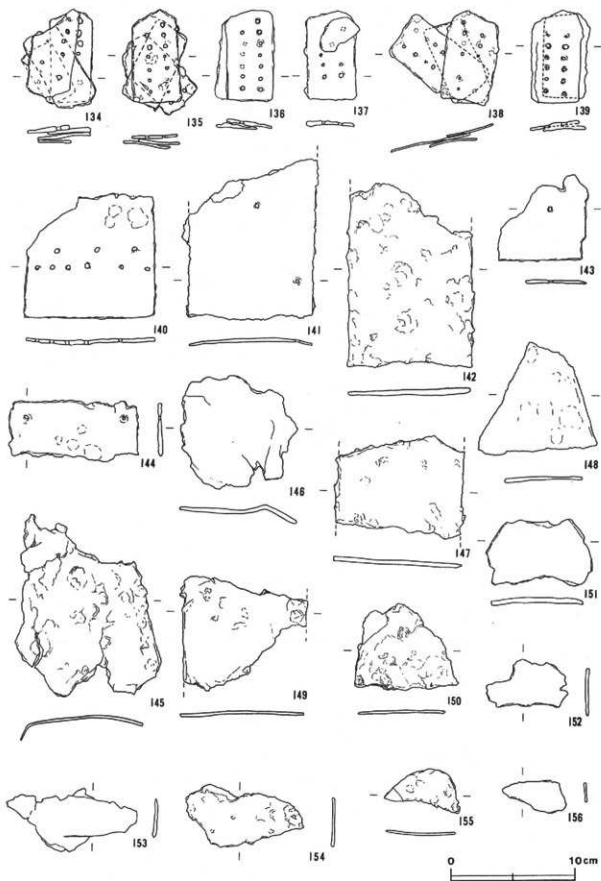
第33图 第35号土坑出土物实测图(1)



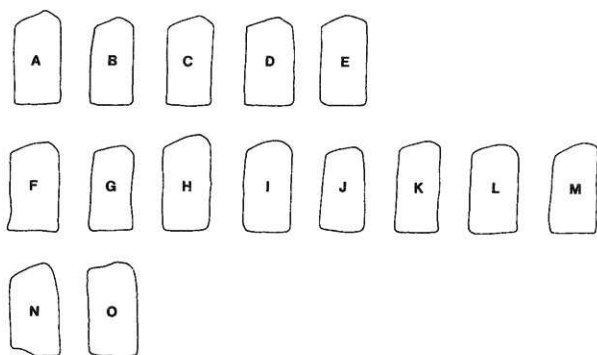
第34图 第35号土坑出土物实测图(2)



第35图 第35号土坑出土遗物实测图(3)



第36图 第35号土坑出土遗物实测图(4)



第37圖 小札類別

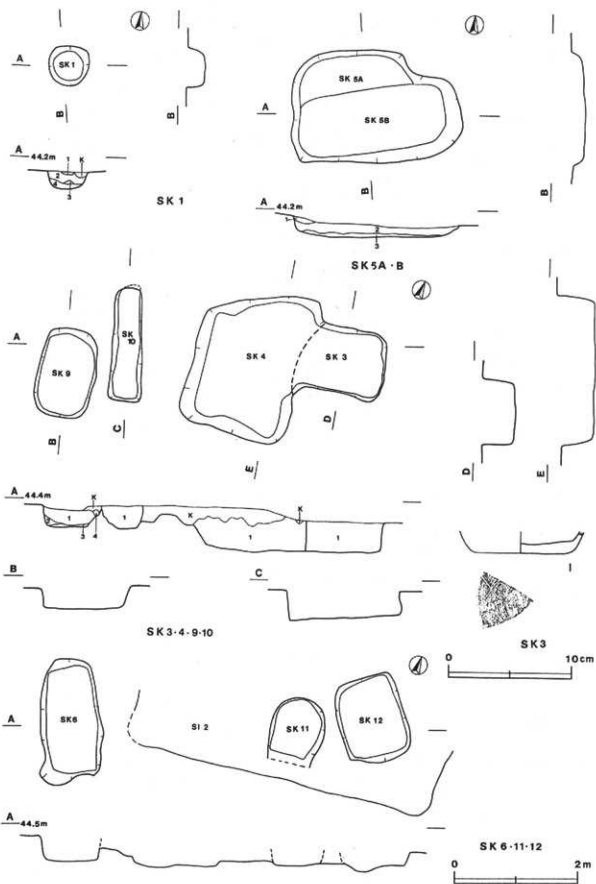
表3 小札一覽表

図版番号	種別	計測値				孔数		形状	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	重紙 (R)	左列	右列		
第33回4	小札	7.2	4.2	0.5	26.7	4(6)	6(7)	A	M6-1
5	小札	7.6	4.1	0.4	26.8	6	6	A	M6-2
6	小札	7.3	4.2	0.4	24.2	6	7	A	M6-3
7	小札	7.3	4.1	0.6	27.6	5(6)	6(7)	A	M6-4
8	小札	7.8	4.0	0.5	27.2	5	3	C	M6-5
9	小札	7.5	4.0	0.3	30.3	7	7	A	M6-6
10	小札	7.6	3.8	0.2	27.5	6	7	A	M6-7
11	小札	7.8	3.9	0.3	22.1	6	7	D	M6-8
12	小札	7.4	3.9	0.2	26.0	6	7	F	M6-9
13	小札	7.5	4.3	0.2	31.8	7	6	A	M6-10
14	小札	7.5	3.8	0.3	31.0	6	6	H	M6-11
15	小札	7.1	3.8	0.3	22.2	6	7	G	M6-12
16	小札	(7.2)	3.9	0.2	14.4	6	6	A	M6-13
17	小札	7.4	3.8	0.3	24.5	6	7	A	M6-14
18	小札	7.2	3.7	0.2	24.2	5	5	A	M6-15
19	小札	7.2	3.6	0.2	29.4	4	6	E	M6-16
20	小札	(6.4)	4.1	0.4	21.3	2(3)	3	-	M6-17
21	小札	7.5	4.0	0.3	26.8	6	6	-	M6-18
22	小札	7.2	4.0	0.3	25.4	6	7	A	M6-19

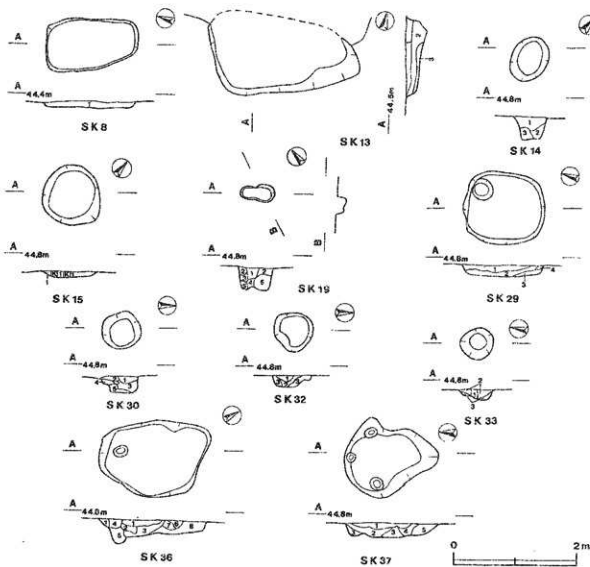
图版番号	種 別	計 測 値				孔 數		形 状	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	左 列	右 列		
23	小 札	7.8	3.9	0.3	26.3	6	7	D	M6-20
24	小 札	7.4	4.1	0.3	31.2	6	6	I.	M6-21
25	小 札	7.3	4.6	0.3	33.6	6	4(5)	A	M6-22
26	小 札	7.7	5.0	0.4	30.3	5	7		M6-23
27	小 札	7.6	4.1	0.3	18.8	5	7	C	M6-24
28	小 札	7.4	3.9	0.3	22.1	6	7	D	M6-25
29	小 札	7.4	4.0	0.3	29.7	5	6(7)	D	M6-26
30	小 札	(5.8)	3.8	0.3	19.7	4	3(4)		M6-27
31	小 札	7.7	4.0	0.3	27.1	6	6(7)	-	M6-28
32	小 札	7.5	4.0	0.4	33.1	6	6	C	M6-29
33	小 札	7.4	4.1	0.3	20.2	7	7	A	M6-30
34	小 札	7.4	3.9	0.9	15.2	6	7	A	M6-31
35	小 札	(6.9)	4.1	0.3	22.6	5	7	-	M6-32
36	小 札	(6.8)	3.8	0.3	22.9	5	7	-	M6-33
第34回37	小 札	(7.3)	3.9	0.4	26.6	4(6)	3(4)	-	M6-34
38	小 札	7.3	3.8	0.2	18.3	5(7)	6	D	M6-35
39	小 札	7.3	3.9	0.25	27.9	5(6)	4(7)	D	M6-36
40	小 札	7.9	4.0	0.3	32.5	5(6)	6(7)	C	M6-37
41	小 札	7.7	3.5	0.3	25.1	3(5)	7	J	M6-38
42	小 札	7.4	4.0	0.2	31.4	5(6)	5(7)	A	M6-39
43	小 札	7.6	3.8	0.3	25.1	5	6(7)	D	M6-40
44	小 札	7.3	4.0	0.2	19.0	6	7	A	M6-41
45	小 札	7.3	4.3	0.2	25.6	6(7)	6(7)	N	M6-42
46	小 札	7.1	4.0	0.25	24.4	6	7	A	M6-43
47	小 札	7.3	3.9	0.3	27.8	6	6	L	M6-44
48	小 札	7.8	4.4	0.2	26.2	6	6	D	M6-45
49	小 札	7.4	4.1	0.2	26.2	5(6)	7	A	M6-46
50	小 札	7.5	3.8	0.2	27.8	6	7	A	M6-47
51	小 札	(7.4)	3.4	0.2	15.1	4(5)	6	-	M6-48
52	小 札	7.7	3.9	0.2	26.3	6	7	-	M6-49
53	小 札	7.4	3.7	0.2	30.4	4(6)	5(6)	A	M6-50
54	小 札	7.6	3.8	0.2	25.7	4	6	D	M6-51
55	小 札	7.2	3.6	0.2	22.5	5(6)	4(7)	E	M6-52
56	小 札	7.3	3.4	0.15	19.3	5(6)	6(7)	J	M6-53
57	小 札	7.1	3.7	0.2	27.4	6	6(7)	D	M6-54
58	小 札	7.5	3.7	0.2	34.6	6	7	C	M6-55
59	小 札	7.4	4.1	0.3	26.1	5	6	O	M6-56
60	小 札	7.6	4.1	0.2	26.6	3	7	I	M6-57
61	小 札	7.4	3.9	0.2	18.8	5	7	F	M6-58
62	小 札	7.3	4.1	0.2	32.6	6	7	F	M6-59
63	小 札	7.4	4.0	0.2	32.6	5(6)	6	A	M6-60
64	小 札	7.4	4.5	0.4	27.9	6	6		M6-61
65	小 札	7.4	3.8	0.3	22.9	4(5)	6(7)	A	M6-62
66	小 札	7.3	4.0	0.2	24.0	5	4(5)	A	M6-63
67	小 札	(7.2)	4.3	0.1	15.6	6	6	-	M6-64
68	小 札	7.5	4.0	0.3	22.2	6	6(7)	F	M6-65
69	小 札	7.5	4.0	0.2	27.3	3(4)	6(7)	A	M6-66

图取番号	種別	計測値				孔数		形状	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	環数 (個)	左列	右列		
70	小札	7.5	3.5	0.2	18.7	6	7	D	M6-67
71	小札	7.4	3.6	0.2	26.7	6	5	J	M6-68
72	小札	7.3	3.8	0.2	22.6	6	6(7)	-	M6-69
73	小札	(6.6)	4.2	0.3	20.5	5	6	-	M6-70
74	小札	(7.3)	3.9	0.2	17.6	3(6)	4	-	M6-71
75	小札	(7.0)	4.3	0.3	22.3	7	-	-	M6-72
76	小札	7.5	(3.1)	0.4	10.9	3	6	-	M6-73
77	小札	(5.5)	4.0	0.2	18.2	4	3(5)	-	M6-74
78	小札	(6.6)	4.0	0.3	7.4	4	5	-	M6-75
79	小札	(5.4)	4.1	0.2	8.4	4	5	-	M6-76
80	小札	(4.4)	3.9	0.25	12.4	3	3	-	M6-77
81	小札	(4.8)	3.9	0.2	14.0	2	2(3)	-	M6-78
82	小札	(4.8)	4.5	0.5	11.5	3	3(4)	-	M6-79
83	小札	(4.5)	4.2	0.2	11.3	3	4	-	M6-80
第35图84	小札	6.8	3.6	0.3	21.1	5	6	M	M6-81
85	小札	6.8	3.8	0.6	18.2	7	5(6)	H	M6-82
86	小札	6.7	3.3	0.2	19.7	6	6	B	M6-83
87	小札	7.2	3.5	0.3	18.4	5	7	E	M6-84
88	小札	6.9	3.6	0.25	18.1	5	6(7)	B	M6-85
89	小札	7.5	3.5	0.3	22.0	6	5(7)	-	M6-86
90	小札	6.9	3.3	0.2	17.7	6	6(7)	-	M6-87
91	小札	6.9	3.4	0.2	21.5	6	7	B	M6-88
92	小札	6.8	3.5	0.2	15.2	5	7	K	M6-89
93	小札	6.9	3.6	0.2	18.5	4	3	H	M6-90
94	小札	(6.9)	3.3	0.4	23.7	3	5	K	M6-91
95	小札	6.7	3.6	0.3	19.2	5	7	K	M6-92
96	小札	6.7	3.2	0.15	19.9	5	5	K	M6-93
97	小札	7.3	3.8	0.23	21.3	3(4)	6	-	M6-94
98	小札	6.8	3.7	0.3	20.6	6	6	-	M6-95
99	小札	6.9	3.6	0.3	17.4	6	7	M	M6-96
100	小札	7.0	3.6	0.3	20.4	4	5	K	M6-97
101	小札	6.8	3.3	0.3	16.7	4	6	-	M6-98
102	小札	(6.8)	3.3	0.2	17.0	5	6(7)	M	M6-99
103	小札	6.9	3.7	0.2	18.5	6	7	K	M6-100
104	小札	7.0	3.4	0.2	15.9	3	5	B	M6-101
105	小札	(6.0)	3.4	0.2	13.5	5	5	-	M6-102
106	小札	(7.1)	3.6	0.3	16.5	5	5(6)	-	M6-103
107	小札	7.0	3.7	0.2	17.4	5(6)	6	-	M6-104
108	小札	(6.7)	3.6	0.3	14.1	6	3	-	M6-105
109	小札	(5.8)	3.7	0.5	10.3	4	5	-	M6-106
110	小札	(5.7)	3.6	0.4	12.2	4	6	-	M6-107
111	小札	(5.8)	3.5	0.3	9.2	6	5	-	M6-108
112	小札	(5.0)	4.0	0.3	9.7	3	2(3)	-	M6-109
113	小札	(6.8)	3.6	0.3	13.6	6	3	-	M6-110
114	小札	(5.1)	(3.4)	0.3	(10.2)	4	5	-	M6-111
115	小札	(5.2)	3.4	0.3	10.4	3	4	-	M6-112
116	小札	(4.9)	3.4	0.3	9.4	3	3	-	M6-113

図版番号	種 別	計 測 値				孔 数		形 状	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	左 列	右 列		
117	小 札	(4,1)	3,7	0,2	10,3	1	1	-	M 6-114
118	小 札	(5,5)	3,6	0,2	13,4	5	4	-	M 6-115
119	小 札	(5,4)	3,4	0,5	11,8	5	5	-	M 6-116
120	小 札	(4,5)	3,6	0,2	9,9	3	2	-	M 6-117
121	小 札	(3,6)	3,7	0,1	8,1	2	4	-	M 6-118
122	小 札	(3,6)	3,8	0,2	7,9	1	1	F	M 6-119
123	小 札	(2,5)	4,2	0,5	6,9	2	2	-	M 6-120
124	小 札	(3,5)	(2,3)	0,15	3,5	-	1	A	M 6-121
125	小 札	7,4	5,8		43,8			-	M 6-122 磁石
126	小 札				25,4			A	M 6-123 磁石
127	小 札				42,0			B	M 6-124 磁石
128	小 札	7,1	5,0		41,6			D M	M 6-125 磁石
129	小 札	6,7	3,2		35,9			A	M 6-126 磁石
130	小 札	3,1	3,9		36,9			-	M 6-127 磁石
131	小 札				38,5			B L	M 6-128 磁石
132	小 札				75,5			F	M 6-129 磁石
133	小 札				12,1			-	M 6-130 磁石
第36回134	小 札				59,8			D	M 6-131 磁石
135	小 札				60,1			A	M 6-132 磁石
136	小 札	7,3	4,7		40,5			O	M 6-133 磁石
137	小 札	7,1	4,0	0,2	31,3	3	2 (3)	B	M 6-134 磁石
138	小 札				67,9				M 6-135 磁石
139	小 札	7,4	4,7		52,9				M 6-136 磁石
140	檜 板	(10,1)	10,6	0,4	81,7				M 6-137
141	檜 板	(13,1)	10,6	0,3	146,6				M 6-138
142	檜 板	(14,9)	10,1	0,3	146,7				M 6-139
143	檜 板	(7,0)	7,2	0,2	28,9				M 6-140
144	檜 板	4,2	10,5	0,4	83,2				M 6-141
145	檜 板	(14,8)	(11,9)	0,2	169,6				M 6-142
146	檜 板	9,5	8,2	0,4	69,0				M 6-143
147	檜 板	(8,3)	10,2	0,5	41,6				M 6-144
148	檜 板	(9,1)	(9,6)	0,4	70,5				M 6-145
149	檜 板	(9,3)	(10,0)	0,2	70,0				M 6-146
150	檜 板	(7,0)	(8,4)	0,2	54,1				M 6-147
151	檜 板	(5,4)	8,6	0,5	34,0				M 6-148
152	檜 板	6,6	3,8	0,3	19,2				M 6-149
153	檜 板		10,6	0,2	39,9				M 6-150
154	檜 板	(5,0)	(9,5)	0,3	5,1				M 6-151
155	檜 板	(6,2)	(3,5)	0,2	7,1				M 6-152
156	檜 板	(5,1)	(2,6)	0,2	22,3				M 6-153



第38图 土坑・出土遺物実測図(1)



第39図 土坑実測図(2)

第1号土坑土層解説 (第38図)

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子微量

第2号土坑土層解説 (第38図)

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子中量

第4号土坑土層解説 (第38図)

- 1 暗オリーブ褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子顕微鏡

第5-10号土坑土層解説 (第38図)

- 1 表土
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 オリーブ褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第9号土坑土層解説 (第7図)

- 1-4 層は第2号住跡礎石上
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子顕微鏡

- 6 黒色 ローム粒子少量
- 7 暗オリーブ褐色 ローム粒子中量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子顕微鏡

第8号土坑土層解説 (第39図)

- 1 黒褐色 焼土粒子顕微鏡

第9号土坑土層解説 (第38図)

- 1 暗オリーブ褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量
- 3 オリーブ褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 明黄褐色 ローム粒子顕微鏡

第10号土坑土層解説 (第38図)

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量

第11号土坑土層解説 (第7図)

- 1-10は基礎遺構礎石上
- 9 暗オリーブ褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 10 黒褐色 ローム粒子中量
- 11 暗オリーブ褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

12 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量

第12号土坑土層解説 (第7図)

13 暗オリーブ褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量

14 黒 褐 色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量

15 暗オリーブ褐色 ローム小ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

16 黒 褐 色 ローム粒子少量

第13号土坑土層解説 (第39図)

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子微量

3 暗褐色 ローム粒子中量、砂質

第14号土坑土層解説 (第39図)

1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土粒子少量

第15号土坑土層解説 (第39図)

1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量

第19号土坑土層解説 (第39図)

1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

3 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

5 褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

第26号土坑土層解説 (第30図)

1-7 は第25号土層土

8 暗褐色 ローム粒子多量

9 褐色 ローム微粒子少量、ローム大ブロック微量

10 黒 褐色 ローム粒子少量

第29号土坑土層解説 (第39図)

1 黒褐色 ローム小ブロック少量

2 黒褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック少量

3 暗褐色 ローム粒子多量

4 黒褐色 ローム粒子微量

第30号土坑土層解説 (第39図)

1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

2 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第31号土坑土層解説 (第39図)

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第33号土坑土層解説 (第39図)

1 褐色 ローム粒子少量

2 暗褐色 白色微粒子少量

3 褐色 ローム小ブロック少量

第36号土坑土層解説 (第39図)

1 黒 色 白色微粒子少量、ローム粒子微量

2 黒 褐色 ローム小ブロック少量

3 暗褐色 ローム小ブロック少量

4 黒 色 ローム粒子少量

5 黒 褐色 ローム中ブロック少量

6 黒 褐色 ローム大ブロック少量

7 暗褐色 ローム中ブロック少量

8 褐色 ローム大・中ブロック少量

第37号土坑土層解説 (第39図)

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量

表4 上坑一覽表

土坑 番号	位置	長 径 方 向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面 状況	出土 層土	出 上 遺 物	備 考 (参照関係)
				長(距離)×短径(幅)(m)	深さ(m)				
1	A2hw	N-42-E	円 形	0.71 × 0.66	29	外傾	皿状	人為	土師器5
2	A2ie	N-55'-W	円 形	0.90 × 0.89	30	外傾	皿状	人為	土師器7
3	A2ie	N-84'-E	不整形方形	(1.37) × 1.08	53	垂直	平坦	自然	土師器25, 須恵器8, 縄文1
4	A2ie	N 6'-W	不整形方形	2.31 × (1.64)	60	垂直	平坦	自然	土師器2, 須恵器2, 縄文1
5A	A2je	N-79'-E	隅丸方形	2.00 × (0.70)	20	外傾	平坦	自然	
5B	A2je	N-79'-E	隅丸長方形	2.80 × 1.29	23	外傾	平坦	自然	SK-5Aより新しい
6	A2ir	N-20'-W	隅丸長方形	1.85 × 0.50	45	垂直	平坦	人為	土師器3, 須恵器2
8	A2hc	N-18'-W	隅丸長方形	1.50 × 0.85	10	外傾	平坦	人為	土師器3, 須恵器2
9	A2ir	N-9'-W	隅丸長方形	1.45 × 0.96	35	外傾	平坦	自然	土師器5, 須恵器5
10	A2ir	N-17'-W	隅丸長方形	1.83 × 0.48	47	垂直	平坦	自然	
11	A2hr	N-0'-	楕 円 形	(1.20) × 0.88	43	外傾	平坦	人為	SI-2より新しい
12	A2ha	N-31'-W	隅丸長方形	1.40 × 1.10	40	外傾	凹状	自然	SI-2より新しい
13	A1ie	N-80'-W	不整形四角形	2.34 × (1.7)	34	外傾	平坦	自然	SI-11より新しい
14	A2ha	N-17'-W	楕 円 形	0.76 × 0.61	36	外傾	平坦	人為	土師器4, 須恵器1, 弥生2
15	A2ha	N-5'-W	楕 円 形	0.98 × 0.52	10	垂直	皿状	自然	
19	A1je	N-47'-W	不整形四角形	0.57 × 0.28	15	垂直	凹内	自然	土師器3, 須恵器1
23	A1ie	N-72'-E	不整形四角形	3.12 × 1.45	10	外傾	平坦	自然	土師器7, 須恵器1

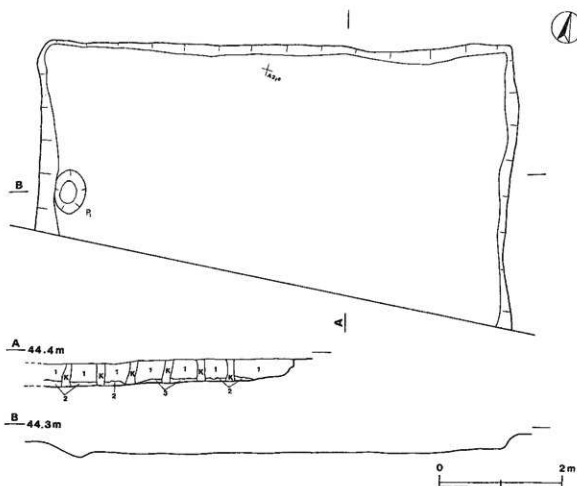
上段番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	基壇	覆土	出土遺物	備考 (重複関係)
				長径(軸)×短径(軸)(m)	高さ(m)					
24	A1j0	N-20°-W	楕円長方形	2.74 × 1.27	23	緩斜	平坦	自然	土師器9, 須恵器1, 弥生1	SI-9より断片
25	A1j7	N-18°-W	円形	1.32 × [1.19]	25	緩斜	平坦	自然	土師器36, 須恵器2	SK-26より断片
26	A1j7	N-67°-E	円形	1.30 × [0.80]	28	緩斜	平坦	自然	土師器10, 須恵器2	SK-25より断片
28	A2j2	N-29°-W	円形	1.20 × [1.05]	80	外傾	皿状	人為	土師器2, 須恵器1, 弥生1	SI-8より断片
29	A1i0	N-15°-W	楕円方形	1.25 × 1.15	17	緩斜	平坦	自然	土師器118, 須恵器23	
30	A2j2	N-17°-W	円形	0.64 × 0.60	28	外傾	平坦	人為		
32	A1j0	N-67°-E	円形	0.64 × 0.61	20	緩斜	皿状	人為		
33	A1j0	N-10°-W	円形	0.55 × 0.53	17	緩斜	皿状	自然		
35	B1a0	N-4°-W	楕円形	0.89 × 0.75	25	緩斜	皿状	人為	花瓶1, 埴土1, 刀子1, 小札等153	
36	A1j0	N-10°-E	不整形円形	1.85 × 1.25	25-40	緩斜	凹凸	人為		
37	B1a0	N-6°-W	不整形円形	1.55 × 1.35	23	緩斜	皿状	人為		

3 その他の遺構及び遺物

第1号竪穴遺構 (第40図)

位置 調査区中央, A2j0区。

規模と平面形 長軸7.65m, 短軸(3.98m)で方形と思われるが, 南側が調査区外のため詳細は不明である。



第40図 第1号竪穴遺構実測図

主軸方向 N-76°-E

壁面 壁高約20cmで、緩やかに立ち上がる。

底面 ほぼ平坦であり、全体に軟弱である。

ピット 1か所。P₁は、長径70cm、短径50cmの楕円形で、深さ10cmである。

覆土 3層からなり、自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微細、焼土粒子・炭化粒子極微細 3 暗オリーブ褐色 ローム粒子多量
2 オリーブ褐色 ローム粒子極めて多量

遺物 本跡からは、出土遺物がない。

所見 本跡は、平面形から住居跡とも考えられるが、床面が全体的に軟弱であること、壁面がしっかりしていないこと、出土遺物が全くないことなどから、第1号竪穴遺構とした。

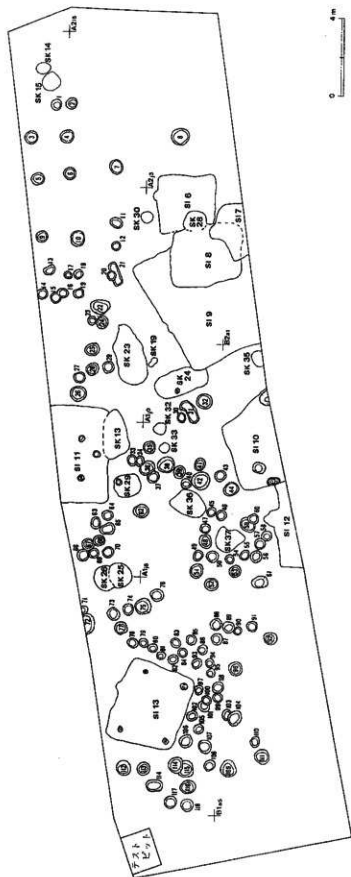
ピット群 (第41回)

当遺跡からは、ピットが118本確認されている。特に調査区中央部から西部にかけて集中する傾向がある。いずれのピットも円形で、径は20～50cm、深さ20～40cmである。欄列もしくは、柱穴列、掘立柱建物跡の可能性も考えられたが、規格性が見られず、出土遺物も小片のみで時期決定できるものもない。性格不明のピット群としてとらえておきたい。

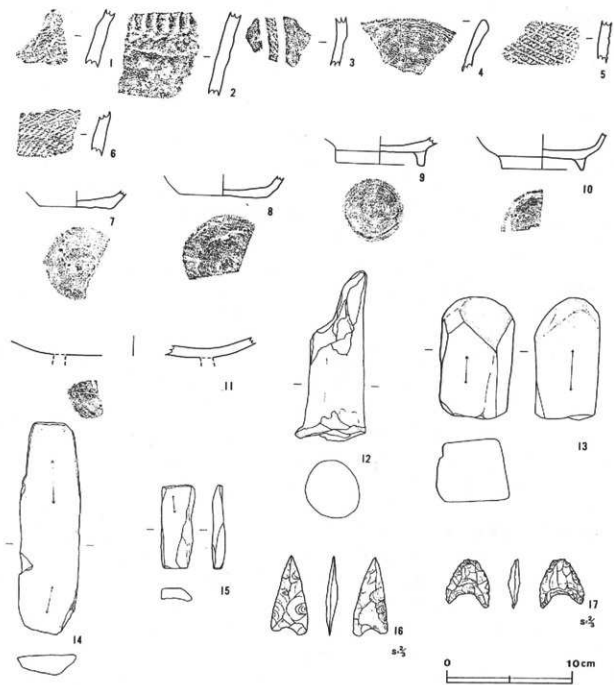
4 遺構外出土遺物

当遺跡から出土した遺物で、遺構に伴わなかったものについて以下に記載する。(第42回)

1, 2は縄文時代中期阿玉台式土器である。1は半截竹管により文様が描かれている。2は輪積痕を残し、爪形文が施されている。3は縄文時代後期称名寺式土器で、LRの単節斜縄文を地文に、太めの沈線により文様が描かれている。4～6は弥生時代後期十王台式土器である。4は口縁部片で、4本単位の櫛による波状文、沈線による格子目文が描かれている。5, 6は胴部片で、付加条2種の縄文を羽状に施文している。7, 8は須恵器坏の底部片である。9, 10は須恵器高台付坏の底部片、11は須恵器盤の破片である。いずれも線刻を有している。12は土製の支脚である。13～15は砥石である。13は砂岩を用い4面を使用している。14は緑泥炭岩を用い1面のみを使用している。15は粘版岩製で、片側縁は切り出し痕が残る。16, 17は石鎌である。16はチャート製、縦長で袈りは小さい。17は頁岩製、袈茎で脚はやや長めである。



第41図 ビット全体図



第42図 遺構外出土遺物実測図

第4節 まとめ

当遺跡から検出された遺構は、竪穴住居跡13軒、土坑28基、ピット118本、竪穴遺構1基である。以下、各時代毎に主な遺構と遺物についての概略を述べ、まとめとしたい。

縄文時代

遺構は確認されず、土器片が表土および後代の遺構覆土中から少量出土しているのみである。土器片は小片が多い、中期阿玉台式、後期称名寺式土器である。

弥生時代

遺構は確認されず、少量の土器片が表土および後代の遺構覆土中より出土している。後期の土台式土器である。

古墳時代

古墳時代の住居跡は2軒検出されている。第1号住居跡の出土遺物は、土師器環の口径が小ぶりであること、底部のへら削り調整が雑であること、口縁部の立ち上がりが高いことなどから、7世紀後半と考えられる。第9号住居跡の出土遺物は、土師器環が扁平であること、甕が長胴化していること、甕頸が存在していることなどから6世紀後半と考えられる。7の須恵器高台付環は、覆土中層からの出土であり、流れ込みと考えられる。

平安時代

平安時代の住居跡は8軒検出されている。第4・11号住居跡は、須恵器環の底径が口径の1/2以上であること、二次底部面を持つ環が見られること、甕が大型化していることなどから8世紀後半と考えられる。

第2・3・7・8・12・13号住居跡は、須恵器環の底径が口径の1/2以下であること、須恵器蓋が存在していること、甕が伴うことなどから9世紀前半と考えられる。

第2・23号土坑出土の土師器環は、器高が低く、皿状で糸切り痕が見られることなどから10～11世紀と考えられる。第25号土坑出土の高台付環は、小型化しており、口縁部が外反することなどから、11世紀と考えられる。第28号土坑出土の土師器高台付環は、高台部が足高であること、部分的に内面黒色処理されていることなどから10世紀代と考えられる。

第35号土坑出土鉄製品（小札）について

本跡からは、鎧の小札・壺板、刀子、花瓶が出土している。特に小札は150枚を超える数がまとまって出土している。小札は威糸をはずし、纏めた状態で、壺板は纏めた小札の東側に置かれた状態で出土している。小札の下、最底部には花瓶が横位の状態で、刀子は小札と同レベルから出土している。

小札は、威穴2行の並列で、大きさおよび小札頂部の形により15種類に分類できる。(第37図) (腐食がかなり進んでいるものもあるので、実際はもっと少ない種類になる可能性がある。)

A～E類は、小札頂部で角度をもつもので、A類が11点、B類が6点、C類が2点、D・E類がそれぞれ1点確認されている。F～M類は、小札頂部が丸味をもつもので、F類が25点、G類が5点、H・I・J類がそれぞれ3点、K・L類がそれぞれ2点、M類が1点確認されている。N類は、小札片側縁が内彎するもので、1点のみの確認である。O類は小札がほぼ長方形を呈するもので、2点確認されている。

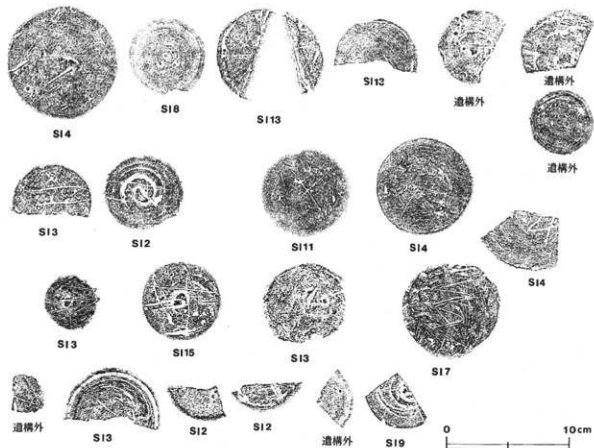
それぞれの小札形状の差異は、鎧の部位における小札の種類の違いによるものと思われるが、威糸を抜かれ、小札だけを纏めて埋納したような状態なので詳細は不明である。

概して、小札は大形であることから平安期の小札の特徴を兼ね備えているように思われる。なお、相伴している花瓶は、13世紀末と考えられることから、小札は伝世したものと推察できる。

出土遺物のへら記号について（第43図）

当遺跡から出土した須恵器には、へら記号の描かれているものが25点出土している。形態は、9種類を確認

することができる。最も多いのは、「一」の9点、次いで「=」、「×」の2点で、いずれも直線または直線の組み合わせによるものである。「一」、「×」は、木葉下窯跡群からも出土している。流通関連がうかがえる資料である。木葉下窯跡群で確認されていないヘラ記号については、今後の類例を待ちたい。



第43図 ヘラ記号拓影図

参考文献

- 茨城県教育財団「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書5 鹿の子C遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第20集』1983年3月
- 茨城県教育財団「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書6 木葉下遺跡Ⅰ（窯跡）」『茨城県教育財団文化財調査報告第21集』1983年3月
- 茨城県教育財団「常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書8 木葉下遺跡Ⅱ（窯跡）」『茨城県教育財団文化財調査報告第26集』1984年3月
- 古代学協会「法住寺殿跡」『平安京跡研究調査報告第13輯』1984年3月
- 山岸素夫「日本甲冑論集」日本甲冑論集刊行会 1991年6月
- 瀬戸市史編纂委員会「瀬戸市史 陶磁史篇一」1969年7月
- 瀬戸市史編纂委員会「瀬戸市史 陶磁史篇二」1981年3月

写 真 图 版



遺構確認状況



調査区全景（終了）



第2号住居跡遺物出土状況



第3・4号住居跡遺物出土状況



第3・4号住居跡 発掘



第7号住居跡遺物出土状況



第7号住居跡竈内遺物出土状況



第9号住居跡竈内遺物出土状況

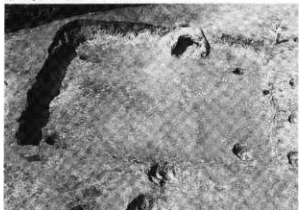
PL2



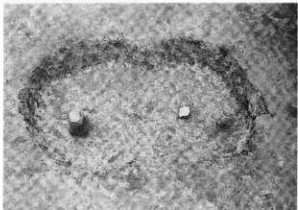
第9号住居跡遺物出土状況



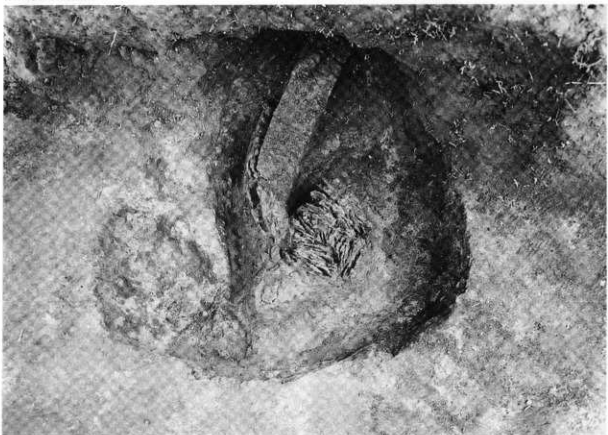
第13号住居跡遺物出土状況



第13号住居跡完掘



第25・26号土坑遺物出土状況



第35号土坑遺物出土状況



SI 1-1



SI 1-2



SI 1-3



SI 1-4



SI 1-5



SI 2-1



SI 2-5



SI 2-2



SI 2-3



SI 2-6



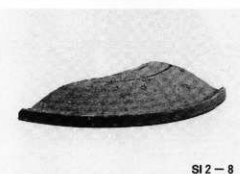
SI 2-4



SI 2-7



SI 2-10



SI 2-8



SI 2-9



SI 2-11

PL4



SI3-1



SI3-7



SI3-2



SI3-3



SI3-4



SI3-5



SI3-6



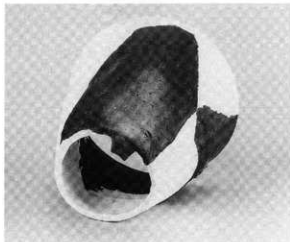
SI3-11



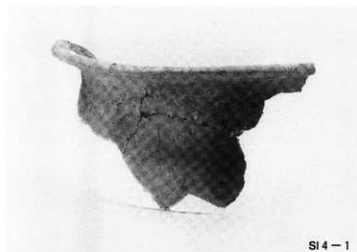
SI3-12



SI3-8



第3号住居跡出土遺物



SI 4-1



SI 4-2



SI 4-3



SI 4-4



SI 4-5



SI 4-6



SI 4-7



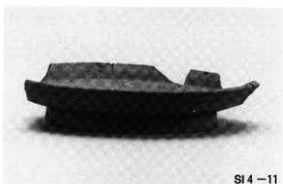
SI 4-8



SI 4-10



SI 4-9



SI 4-11



SI 4-12



SI 4-13

PL6



SI 4-15



SI 7-2



SI 9-2



SI 7-1



SI 7-5



SI 7-3



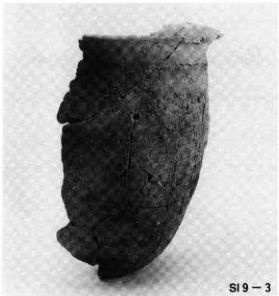
SI 8-1



SI 9-1



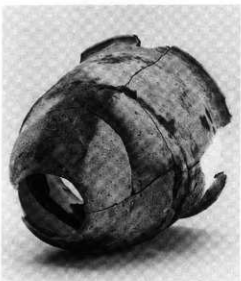
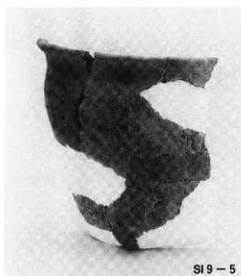
SI 7-4



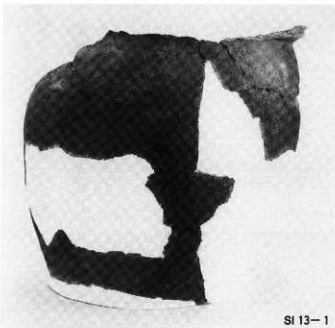
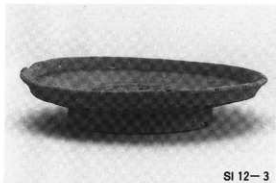
SI 9-3



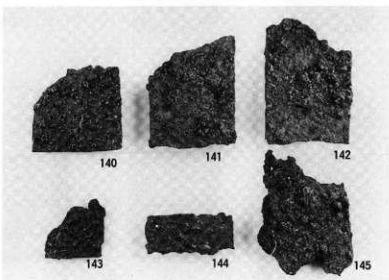
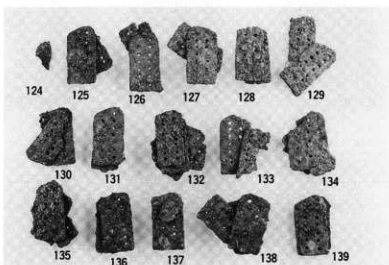
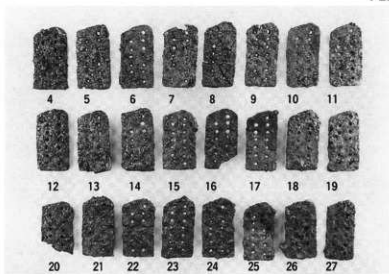
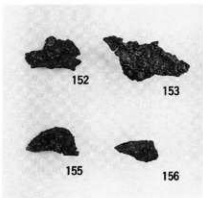
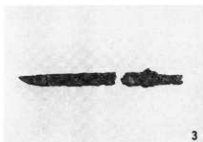
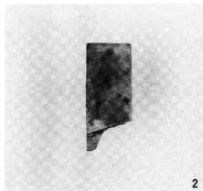
SI 9-4



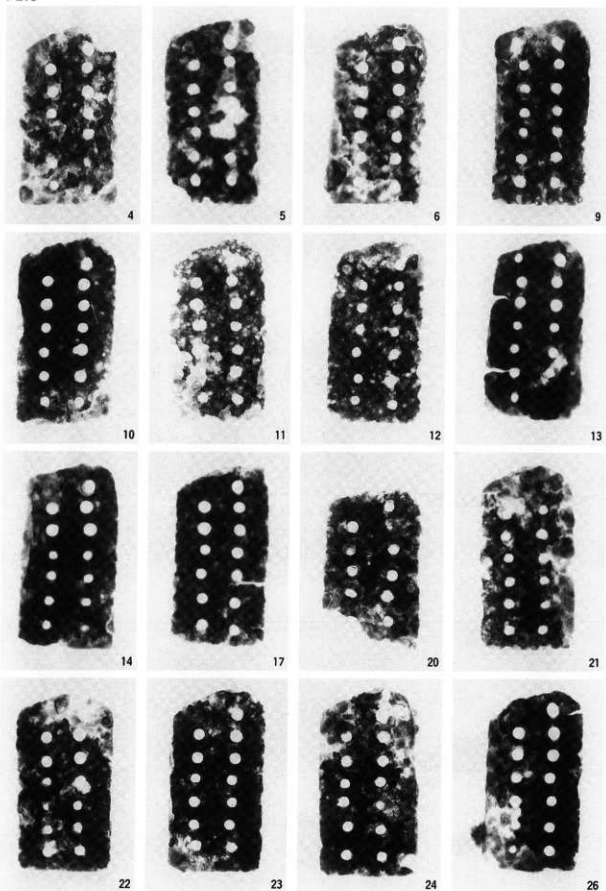
PL8



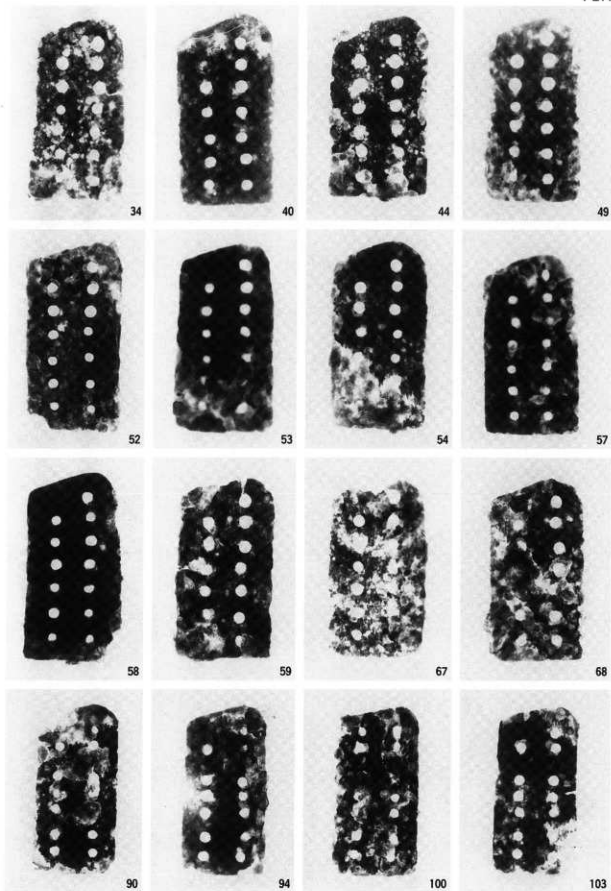
第12・13号住居跡，第2・23・24・25・28号土坑出土遺物



PL10

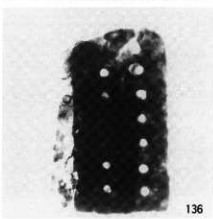
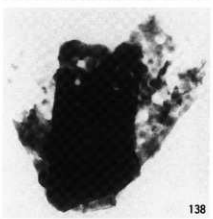
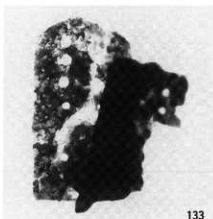
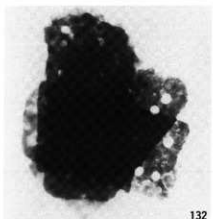
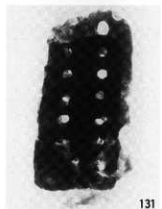
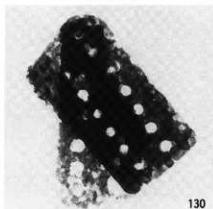
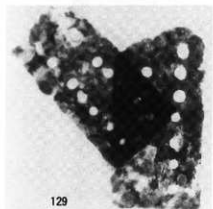
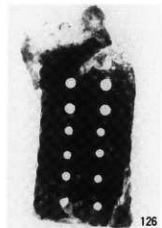
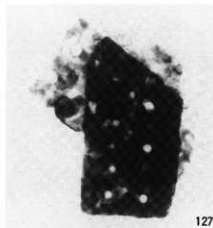
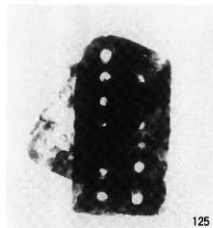


第 35 号土坑出土小札 X 線写真

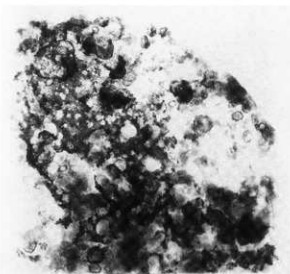


第 35 号土坑出土小札 X 線写真

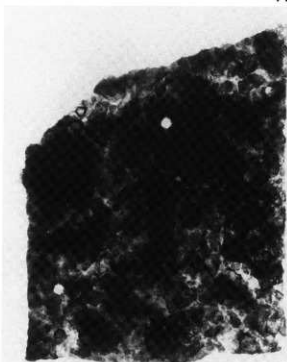
PL12



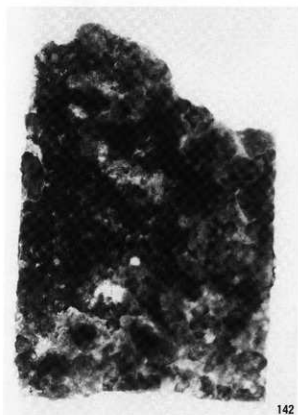
第 35 号土坑出土小札 X 線写真



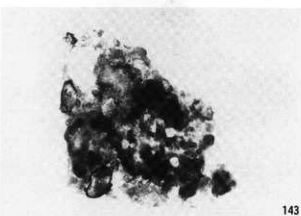
140



141



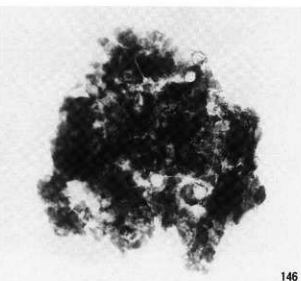
142



143

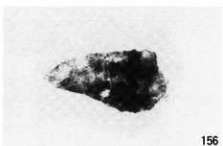
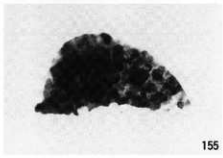
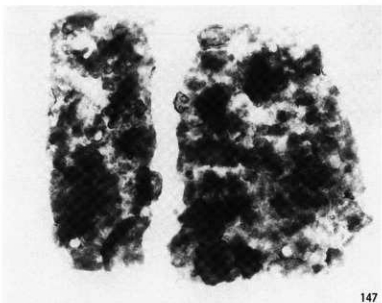
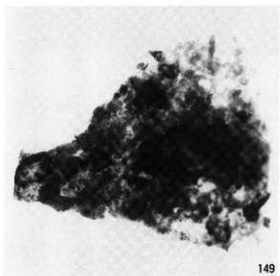
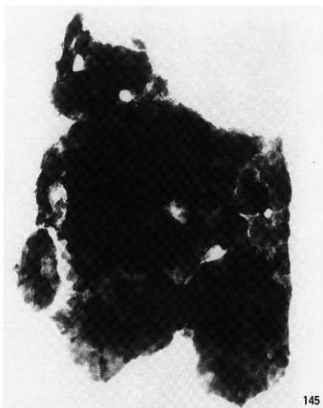
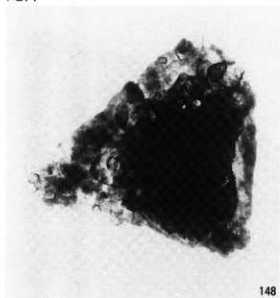


151



146

PL14



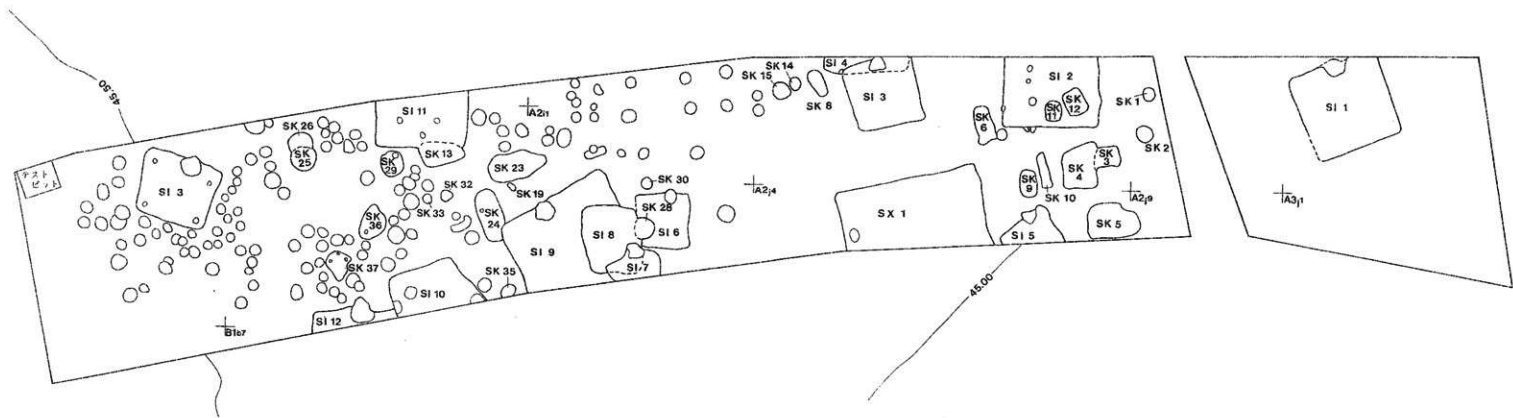
茨城県教育財団文化財調査報告第124集
主要地方道水戸茂木線道路改良
工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

仲 郷 遺 跡

平成9(1997)年6月23日 印刷
平成9(1997)年6月30日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
水戸市見和1丁目356番地2号
T E L 029-225-6587

印刷 山田軽印刷所
T E L 029-221-3480



付図 仲郷遺跡遺構全体図